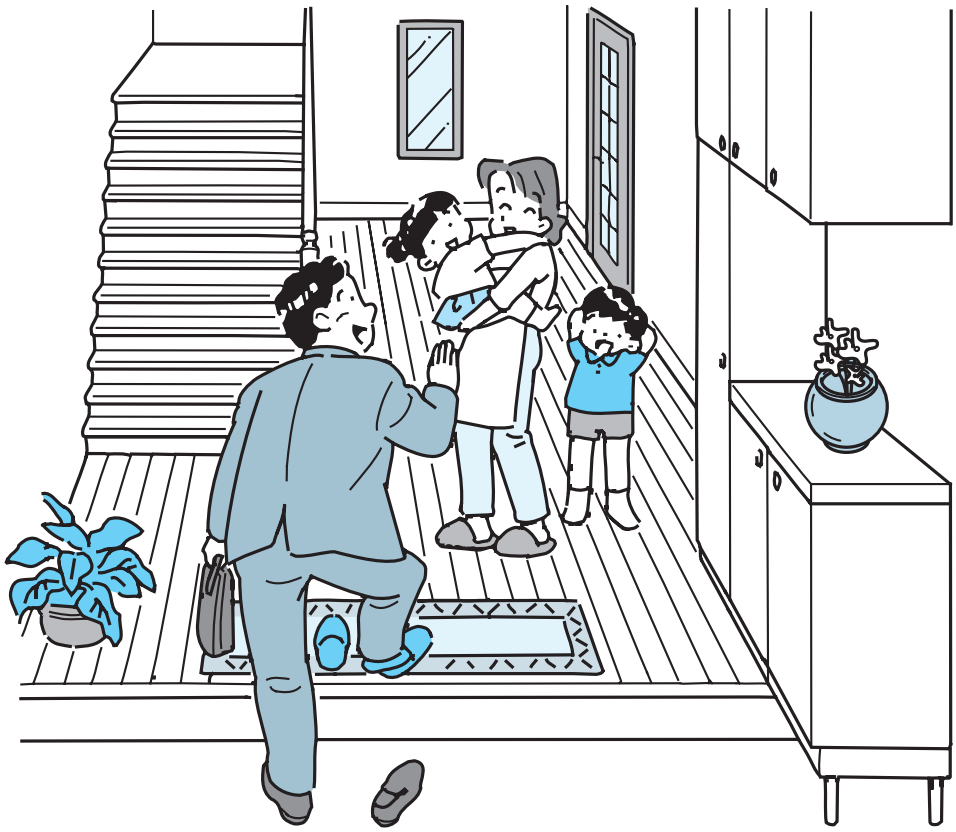
TOSTEM

お施主さま用

リビング建材 建具・造作材・床・階段・その他

取扱い説明書



ご使用にあたって

この説明書では、お施主さまが商品を安全に正しくご使用いただくためのお願い事項、お手入れの方法などの重要な内容を記載しております。
ご留意いただくとともに、大切に保存してください。

重要なお知らせ

ご使用の前に

安全のため、必ずお守りください。「リビング建材商品」のご使用およびお手入れを行う場合は、必ずこの取扱い説明書に従ってください。
もしこの取扱い説明書に従わず、乱用又は誤用によるケガおよび損害が発生した場合は、トステム株式会社およびその販売会社に責任はないものといたします。

1.この取扱い説明書の他にも、あらゆる危険が想定されます。
従って、「リビング建材商品」のご使用およびお手入れを行う際は、この取扱い説明書の記載事項に限らず、安全対策に関して十分な配慮が必要です。

2.この取扱い説明書は版権を有し、その権利は留保されています。

お願い

●この「取扱い説明書」に掲載されていない調整については、無理に調整しようとすると扉の落下･破損･ケガなどのおそれがありますので、お買い求めの販売店又は、弊社お客さま相談室までご相談ください。

問合わせ内容	連絡先窓口	TEL
商品全般	お買い求めの工務店・販売店、又は トステム（株）お客さま相談室	TEL(03)3638-8181 (0120)126-001

目　次

■重要なお知らせ
■警告用語の種類と意味……1
■特に注意していただきたいこと……2～8
■お手入れ方法……9～11
■調整方法について……12～34
■商品保証について……35

警告用語の種類と意味

この「取扱い説明書」では、危険度（又は事故の大きさ）によって、次の3段階に分類しています。以下の用語が持つ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

用　語	意　味
⚠警 告	取扱いを誤った場合に、使用者などが死亡又は重傷を負う危険が想定されます。
⚠注 意	取扱いを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。
お　願　い	特に注意を促したり強調したい情報で、指示に従わないと機器の損傷・故障などにつながる場合があります。

特に注意していただきたいこと

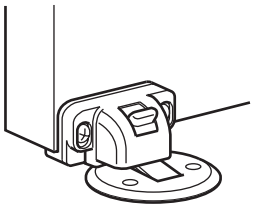
※安全のため、必ずお守りください。

ドアストッパー（マグネットタイプ）

⚠警　告

●心臓ペースメーカーを装着されている方は、接近して操作されると誤作動をまねくおそれがあります。ドアストッパーから30ｃｍ以上離れて操作および使用してください。

その他医用電子機器類に関しても影響を与える場合があります。各機器メーカー又は販売者にご確認ください。



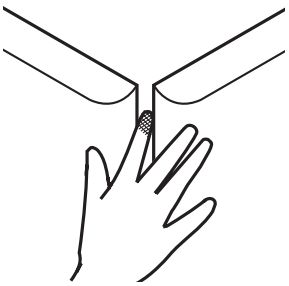
中折れドア・クローゼット折れ戸

⚠警　告

●扉を折りたたむ時に、扉と扉の間にすき間が生じ、このすき間に指を挟んだ状態で扉を閉めると大きなケガにつながるおそれがあります。

乳幼児が開閉を行なわないよう、又、乳幼児が近くにいる時の扉の開閉には十分ご注意ください。

●又、温湿度環境によって扉にソリが生じ、すき間が大きくなる可能性もあります。ご注意ください。

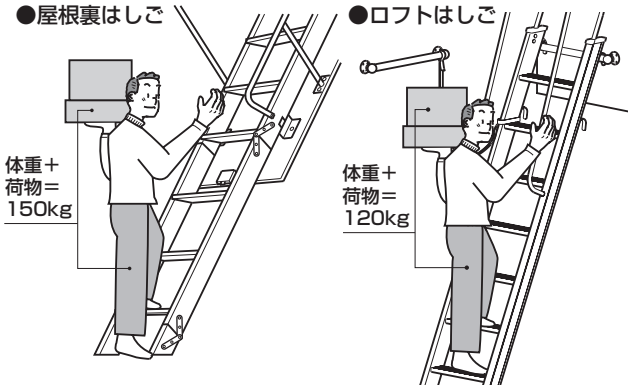


屋根裏はしご・ロフトはしご

⚠注　意

●体重と荷物の合計が、はしごを安全に使用できる最大重量（下図の通り）を超えないようにしてください。

思わぬケガをする場合があります。



室内建具

お願い

●ドアの調整で丁番固定ねじをゆるめた場合は調整後必ず締付け、ガタツキがないことを確認してください。

本体脱落の原因になるおそれがあります。

●扉の開閉にあたっては、丁番側のすき間に手を置かないでください。

指を挟んでケガのおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。

●扉の開閉にあたっては、必ず把手を持って操作してください。

把手から手を離したり、扉の先端に手を置くと、扉が急に閉まったとき、扉と枠の間で指を挟み、思わぬケガをするおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。

●扉を開け放した状態にするときは、ドアストッパーなどをお使いください。

強い風などで、勢いよく閉まることがあり、ぶつかったり、ガラス割れなどで思わぬケガをするおそれがあります。

●グランドラインは隠し丁番を使用しているため、ドアクローザを取付けることはできません。

各種収納

お願い

●玄関収納カウンターの耐荷重は10kgです。この重量をこえる物はのせないでください。

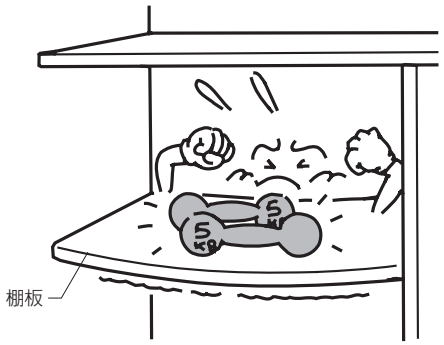
歪曲、破損事故の原因となります。

●丁番などの可動部には手を入れないでください。

挟まれて、ケガをするおそれがあります。

●各商品の耐荷重をこえる収納物をのせないでください。

商品が破損･脱落し､ケガをするおそれがあります。



■玄関収納耐荷重

棚板（W寸法）	収納の参考量	耐荷重
W445	靴2足	4.0kg
W740	靴3～4足	7.0kg
W890	靴4足	8.5kg
T890	靴2足	4.2kg

■玄関収納別売品耐荷重

別売品名	耐荷重
ブーツハンガー	4kg
スライドコートハンガー	5kg

■システム収納耐荷重

部材	耐荷重
固定棚板	20kg
可動棚板	10kg
ガラス棚板	5kg
樹脂棚板	8.5kg
ハンガーパイプ L770	40kg
引出し	7kg
TV台キャビネット	100kg
カウンター	40kg（各キャビネットごと）
寝具棚板	30kg
ハンガーパイプ L450	17kg
ハンガーパイプ L900	35kg
漆調カウンター	10kg

■デコカウンター耐荷重

部材	耐荷重
デコカウンター	幅450mm間隔内で15kg

■ハンギングウォール耐荷重

部材	耐荷重
ガラス棚板	15kg
フック	5kg

■床下収納耐荷重

収納本体（W寸法）		耐荷重
		収納本体
1階用	600	110kg
	900	165kg
2階用	600	70kg
床断熱仕様	600	70kg
ALC・RC用	600	60kg

※耐荷重（kg）は、収納本体に張付の注意ラベルにも記載してあります。
※フタの耐荷重の目安は70kgです。

■屋根裏はしご

部材	耐荷重
はしご	体重＋荷物＝150kg

特に注意していただきたいこと

カーテンボックス

お願い

●カーテンボックスにカーテン以外の物をぶら下げたり、カーテンにぶら下がったりしないでください。
外れ・落下のおそれがあります。

可動間仕切り折れ戸・クローゼット折れ戸

お願い

●扉を完全に折りたたんだ状態でスライド走行させないでください。
円滑に開閉できなかったり、上吊車が破損し、扉が脱落するおそれがあります。

クローゼット開き戸

お願い

●扉の開閉にあたっては、必ず把手を持って操作してください。
把手から手を離したり、扉の先端に手を置くと、扉が急に閉まったとき、扉と枠の間で指を挟み、思わぬケガをするおそれがあります。
特にお子さまにはご注意ください。

室内建具

お願い

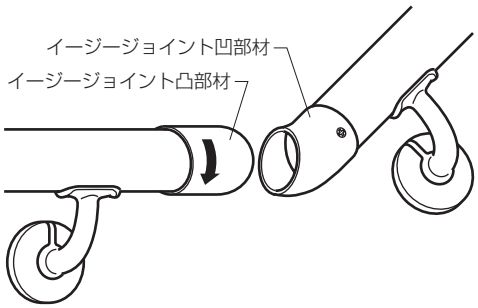
●暖房器具などから発生する熱風・熱気が直接当たらないようにしてください。
扉のソリ・変色などの原因になります。

●扉に粘着テープでポスターなどを張らないでください。
表面が傷むおそれがあります。

手すり

お願い

●イージージョイント（手すり金具）の凸部材と凹部材の間にすき間ができた場合、凸部材を右図の矢印の方向に回して、すき間をなくしてください。
指を挟んでケガのおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。



カウンター（玄関収納・システム収納）・棚板（システム収納）

お願い

●暖房器具などから発生する熱風・熱気が直接当たらないようにしてください。
ソリや変色などの原因になります。

●製品に水・油・殺虫剤など付着しないようにしてください。
材質の特性により表面がふくれたり、シミ・変色などが発生するおそれがあります。

●水にぬれた場合は、速やかにふき取るようにしてください。
長時間ぬれたまま放置すると、ひび割れ・ソリ・変色などの原因になります。

●刃物など先のとがったものや硬いものでひっかかないでください。
キズが付きます。

各種収納

お願い

●シート表面に水･油･酸性の液体･殺虫剤などがかかった場合は、すぐにふき取ってください。
放置しておきますと変色したり、跡や臭いが残ったりするおそれがあります。

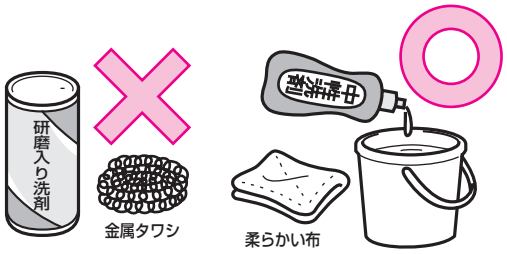
●木製部分に電化製品（電子レンジ・炊飯器など）の熱や水蒸気があたるとソリや変色の原因となります。
収納内部にいれたまま使用しないでください。

※家電製品をのせる場合は、必要設置寸法（家電に付属の取扱い説明書などに記載）を必ずご確認ください。

ガラスを使用している製品（室内建具・収納）

お願い

●ガラスはキズ付けないように取扱ってください。
●金属タワシ・研磨剤入り洗剤などはガラスをキズ付ける原因になります。
ひどい汚れ又は落ちにくい汚れは、薄めた中性洗剤に浸した柔らかい布をかたく絞ってふき取ってください。又、乾いた柔らかい布でからぶきをしてください。

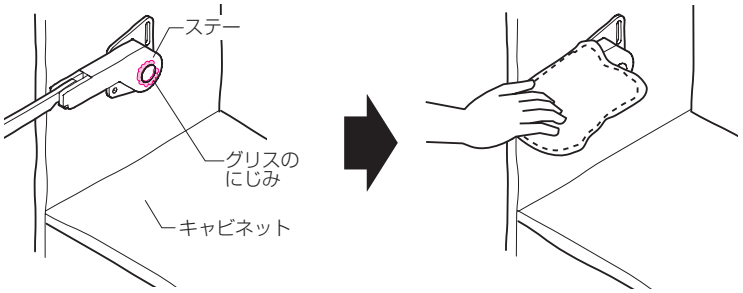


特に注意していただきたいこと

システム収納のステー（扉を支えるアーム部品）

お願い

●長時間使用していると、ステーの可動部よりグリスがにじんでくる場合があります。
機能上支障はありませんので、ふき取ってください。

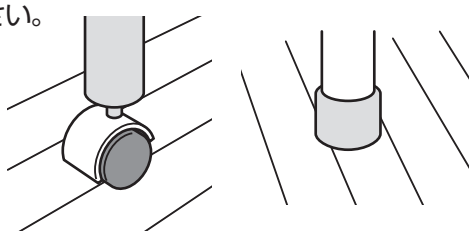


床

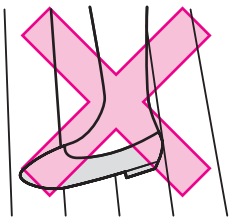
お願い

●キャスター付きのいすなどを繰り返してご使用になりますと、床表面をキズつけたり、破損するおそれがあります。ご使用を避けるか、厚手のカーペットなどを敷いて保護してください。
なお、キャスター付き家具や車いすを使用してもキズが付きにくい商品もありますので、施工された床材がキャスター対応商品かどうかを施工業者さまにご確認ください。

●テーブルやいすをひきずりますと、床材表面をキズ付けるおそれがあります。
脚の表面にフェルトを張るか、カーペットを敷いてください。



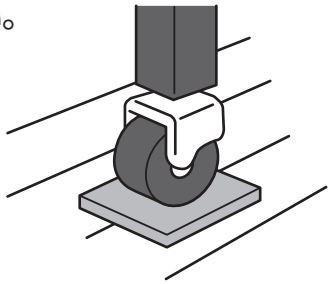
●上履用ですので土足でのご使用はお避けください。



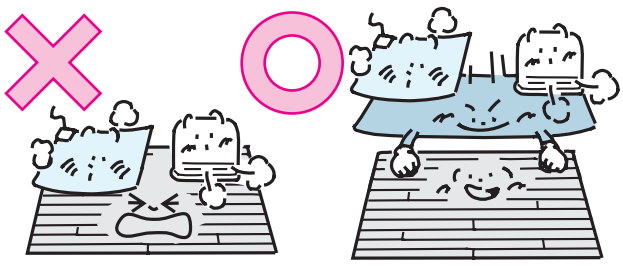
●水やしょう油、洗剤などをこぼした場合は、すみやかにふき取ってください。
耐水性を高めた床材もありますが、放置すると表面のシミ・くされなどの原因になります。

●ピアノなどの重量物を置く場合は、下地の強度など構造上の問題がありますので、あらかじめ施工業者さまへご確認ください。
強度不足の場合、床が抜けるおそれがあります。

●ピアノなどの重量物を設置する場合は、脚部にインシュレーターなどの緩衝材を敷いてください。



●床材に電気カーペットを使用しますと、熱により継ぎ目に極端なすき間や表面にひび割れ、変色を生じますので、使用しないでください。
なお、電気カーペットに対応できる商品もありますので、施工された床材が電気カーペット対応商品かどうかを施工業者さまにご確認ください。

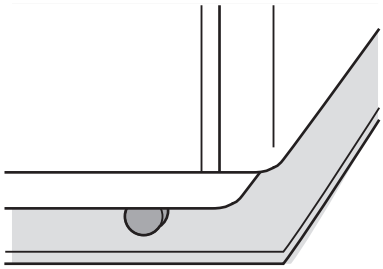


床

お願い

●床材は、大型冷蔵庫や温風ヒーターの吹出し周辺で、熱がかかると継ぎ目にすき間や表面にひび割れ、変色を生じます。大型冷蔵庫や温風ヒーターの熱風が直接床材の表面に当たらないようにしてください。

なお、耐熱性にすぐれた商品もありますので、施工された床材がそれに該当するかどうかを施工業者さまにご確認ください。



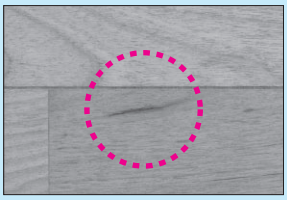
●玄関マットやカーペットを固定するために、粘着テープは使用しないでください。

床材表面を傷めるおそれがあります。

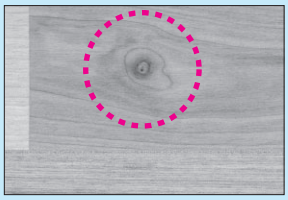
豆知識

天然木は1枚1枚色柄に特有の変化があります。製造工場で極力色合わせするなど工夫しておりますが、まったく同じ木目・色調になることはありません。天然木ならではの特性としてご理解ください。小さな節や入り皮、てりなどは木材の成長過程で発生する天然木ならではの特徴です。個性あふれる自然の表情としてご理解ください。

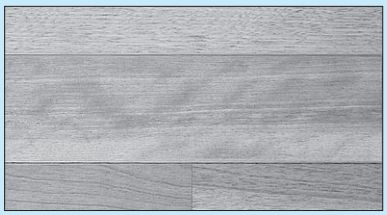
●入り皮
成長過程で幹に巻込まれた樹皮や変色部分



●節
枝が成長した幹に巻込まれた部分



●てり
木材を形成する細胞の方向性の違いから生じるツヤの違い

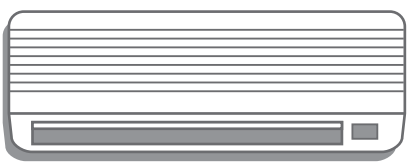


床・階段・手すり・屋根裏はしご・GL(木製品)

お願い

●エアコンや強制排気型の暖房装置を連続使用する場合には、室内が過乾燥となり、床材などの木製品の継ぎ目にすき間や表面にひび割れを生じるおそれがありますので、加湿器の併用をおすすめします。

望ましい湿度は45～70%です。



●サッシ周りなど直射日光に長く当たりますと、熱や紫外線によって変色したり、表面にひび割れが発生するおそれがあります。

カーテン・ブラインドなどでさえぎるようにしてください。

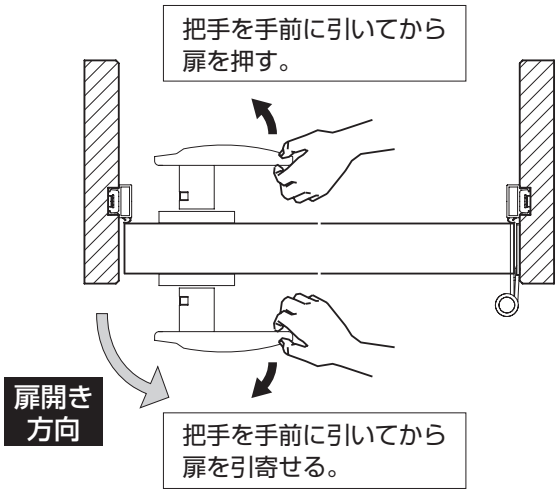
特に注意していただきたいこと

プッシュプルハンドル

お願い

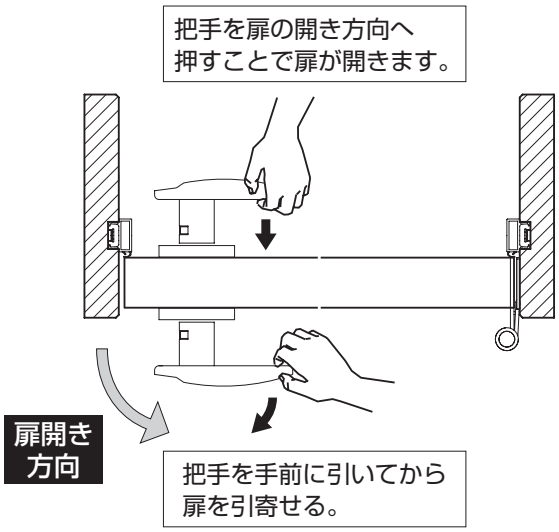
●把手をつまみ、操作するようにしてください。
思わぬ動きでケガをする場合があります。

■通常時設定（プルモード）の場合



●通常のハンドル操作は左図のように内外どちらからも、プレートを引いて行います。
※これは意図しない開扉や必要以上に急な扉の動きが起きないようにするためです。

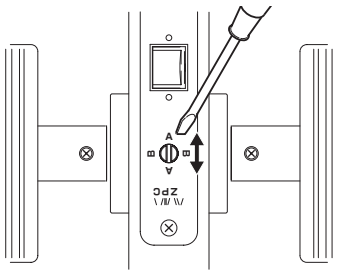
■プッシュプルモードの場合



プッシュ・プルモードへの切替え

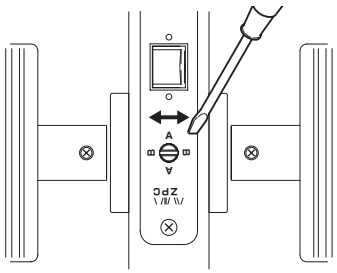
●下図の部分をマイナスドライバーなどで90°回転させることで、切替えができます。又、元のプルモードへの復帰、さらに再度のプッシュ・プルモードへの変更は何度でも可能です。

【通常】



90° 回転

【プッシュ・プルモード】



お手入れ方法

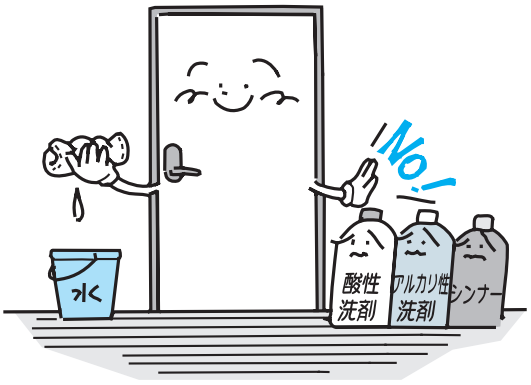
建具の表面など（木目・ガラス・アクリルパネルなど）

●日常のお手入れは、乾いた柔らかい布又は化学ぞうきんでからぶきしてください。

※溝加工デザインの溝部は、表面を損傷させたりするおそれがありますので、水ぶきはしないでください。

●ひどい汚れ又は落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めて固く絞ったぞうきんでふき取ってください。汚れがひどい場合でも、酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤（シンナー・ベンジン）などは絶対に使用しないでください。

●ゴミがたまらないよう、レールの溝はこまめにお掃除をしてください。扉レールの溝にゴミがたまりますと、扉の滑らかな走行のさまたげとなり、故障の原因となります。掃除機などでこまめに掃除してください。



把手・引手・ツマミなど

●日常のお手入れは、乾いた柔らかい布又は化学ぞうきんでから拭きしてください。

●ひどい汚れ又は落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めてかたく絞ったぞうきんでふき取ってください。

床（木製品）

●日常のお手入れは乾いた布でからぶきしてください。

●汚れがひどいときは、かたく絞ったぬれぞうきんでふき取ってください。その後、乾いた布でふき取ってください。

※上記の方法以外でのお手入れはしないでください。

●床材表面にしょう油･コーヒー･洗剤･カビ取り剤をこぼした場合は、放置しておきますと変色のおそれがあります。木目や目地に染み込む前にただちに固く絞ったぬれぞうきんでふき取ってください。

●ペットの排泄物をそのまま放置しますと、水をこぼした場合以上に変色などで床材の美観をそこなうおそれがあります。ただちにかたく絞ったぞうきんできれいにふき取ってください。又、ペットのツメでフローリングの表面をキズつける場合もありますので、ご注意ください。

●床材は水気・湿気を嫌います。水にぬれた場合すみやかに乾いたぞうきんでふき取ってください。放置しておくと、しみ・変色が生じたり、表面のひび割れが生じたりすることがあります。次の点にご留意ください。

①水の飛び散るおそれのある流し台、洗面台の周辺には、マットを敷いて保護してください。

②観葉植物などの鉢には、必ず水受け用の皿などを敷いてください。

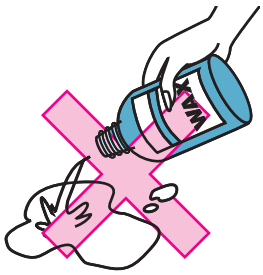
③雨が吹き込むおそれがある場合、サッシを閉めてください。

●クレヨン･マジックなどが床材表面に付着した場合は、アルコール又はシミ抜き用ベンジンを含ませた布ですみやかにふき取ってください。

●化学ぞうきんを床の同じ所に長い間放置したり、ぬれた所を化学ぞうきんでふいたりしないでください。化学反応により、変色・汚れの原因になります。

お手入れ方法

床（木製品）



●ワックスがけをしなくても耐久性はありますが、ワックスがけをする場合は、木床用の樹脂系ワックス（リンレイ：オール）をご使用ください。ワックスがけは半年に一度が目安です。

●ご使用の際は直接床にまかず、布などにしみ込ませて薄くムラなく塗布してください。床に直接多量にまきますと表面のふくれなどの原因となります。

●室温が低いとき（5℃以下）や雨天で湿度が高いときにワックスを塗布したり、ワックスの塗布面にお湯などをこぼすと、ワックスが白化する場合があります。白化した場合はワックスを除去してください。

●ワックス塗布後は、換気を行い乾燥させてください。乾く前に塗布面を歩いたりしますと塗りムラなどの原因となります。

●ワックスがけ前後に化学ぞうきんを使用しないでください。
床材表面のワックスが白くなるおそれがあります。

●ワックスはくり剤は使用しないでください。表面を傷める原因となります。

●ワックスの使用方法を誤ると床材表面に異常を起こす場合がありますので、その他の使用方法については、容器記載の使用方法をよくお読みください。

●床材に小さな穴があき、木の粉のようなものが出てきた場合、害虫のおそれがあるので専用薬剤を散布・注入するなど、早期対応が必要です。専用薬剤は、ホームセンターなどでお求めいただけますが、処理専門業者にご相談されることをおすすめします。

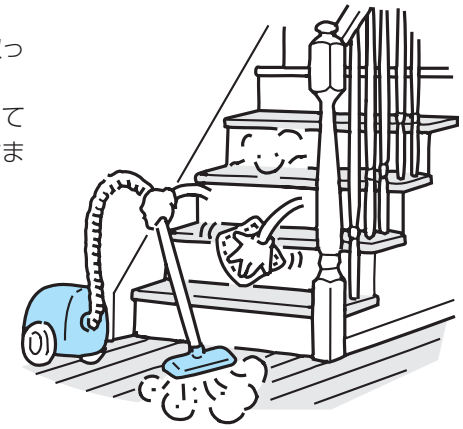
※一般的に床材は製造工程で高温高圧処理されるため、虫や卵は死滅します。その後の流通段階や施工後に、外部から虫が飛来して産卵し、虫食いが発生する場合がまれにあります。

ホルムアルデヒドへの配慮をお願いします。
弊社では商品から放散される化学物質の削減に努めていますが、日常的に通気や換気をこまめに行ってください。特に、新築住宅やリフォーム直後には十分な換気をお願いします。又、ホルムアルデヒドは高温になると多く放散される性質があります。夏場や長時間密閉した後は、特に気をつけてください。

階段など（木製品）

●汚れがひどいときは、固く絞ったぬれぞうきんでふき取ってください。その後、乾いた布でふき取ってください。

●使用上に異常・不具合が生じたときは、状況を確認してください。ご自身で対処できない場合は、施工業者さまにご連絡ください。



パッチンカラット

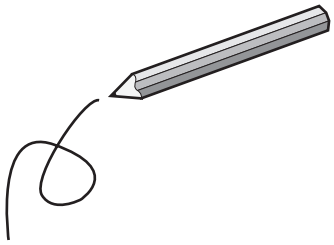
●「パッチンカラット」は多孔質セラミックス素材で水をよく吸う性質を持っていますので、水洗いは行わないでください。

●日常のお手入れは、乾いた布又は固くしぼったきれいな布によるふき取りが基本です。手あか汚れ程度なら、プラスチック消しゴムで簡単に除去できます。

●落しにくい汚れは、次の方法で落すことができます。そのままにしておくと次第に除去しにくくなりますので、汚れが付いたらすぐに落してください。

鉛筆

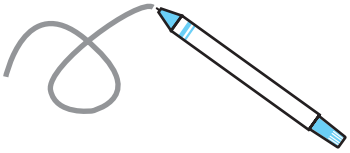
●プラスチック消しゴムで落とせます。



水性ペン

●塩素系漂白剤を綿棒などで塗布し、きれいな布でふき取ります。

※水性ペンの種類によってはとれにくい場合があります。

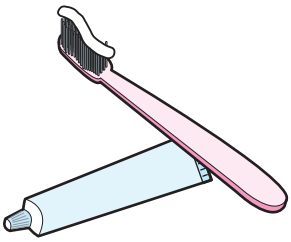


飲料水・調味料

●ケチャップやコーヒーなどをかけた場合、広がらないうちに手早くふき取れば、目立つ汚れは残りません。表面に薄くぬれ跡が残りますが、塩素系漂白剤に浸した布でたたくようにふくと除去できます。うがい液や毛染め液も同様に除去できます。

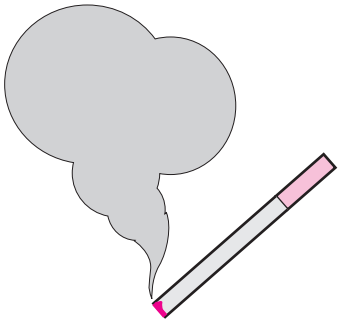
歯磨き

●まず付着した歯磨きを歯ブラシなどでできるだけ取除き、次にプラスチック消しゴムでこすり取ります。そして固くしぼったぬれぞうきんでふいた後、もう一度消しゴムでこすり取れば除去できます。



たばこのヤニ

●クロスや木材に比べて、パッチンカラットにはヤニが付きにくく、目立ちにくいですが、喫煙頻度に応じて固くしぼったきれいな布で軽くふいてお手入れすることをおすすめします。



調整方法について

●ご使用の間、納まりに関して不都合が生じた場合は、下記の要領で調整を行ってください。
①ラベルに表示してある記号を参照し商品名を確認します。
②調整したい建具などの種類を確認します。
③調整方法をよく読んでから調整を行います。

※シリーズ確認方法

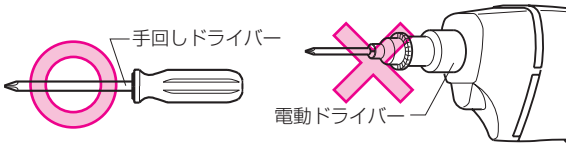
WL ＝ウッディーライン
FL ＝ファミリーライン
GL ＝グランドライン
CL ＝CLシリーズ
SL ＝新和風

■調整方法を予告なしに変更する場合があります。ご了承ください。

お願い

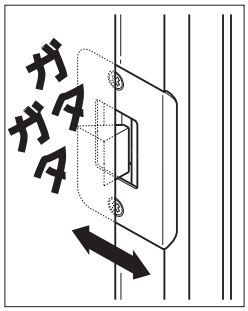
●この「取扱い説明書」に掲載されていない調整については、無理に調整しようとすると扉の落下･破損･ケガなどのおそれがありますので、お買い求めの販売店又は、弊社お客さま相談室までご相談ください。

●建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。
電動ドリルを使用した場合は、ねじ頭が壊れるおそれがあります。

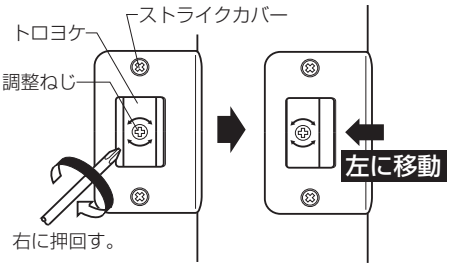


WL・FL・GL・CL・SL戸襖ドア／ストライクによる建付け調整

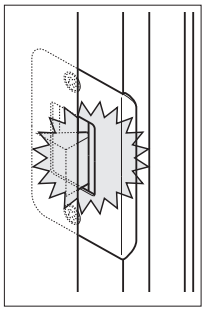
■ラッチがストライクの中でガタつく



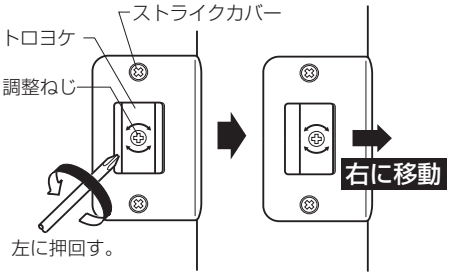
●調整ねじを押しながら、右に回してください。無段階で移動します。



■ラッチがかからない

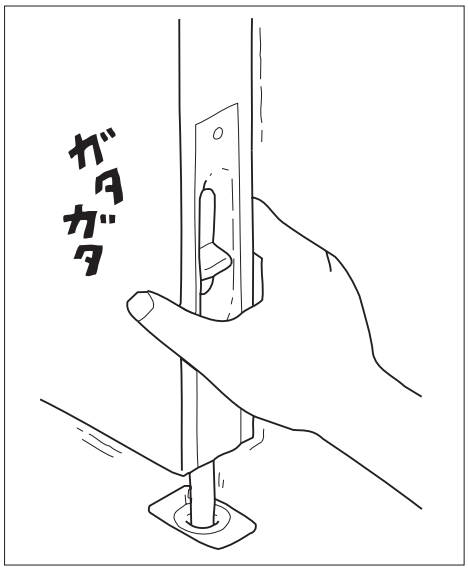


●調整ねじを押しながら、左に回してください。

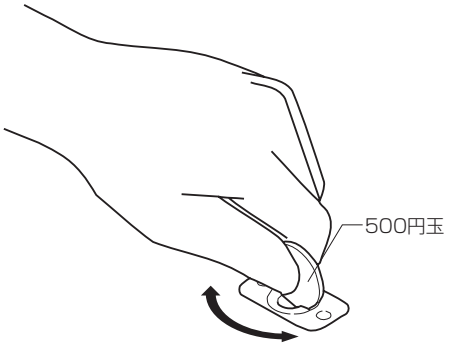


WL・FL・GL親子ドア／子扉のガタツキ調整

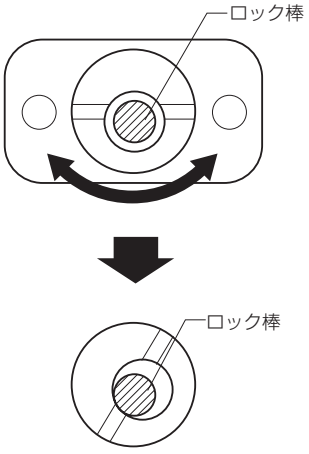
■子扉がガタつく



●コインなどで穴部分を回転させ、ロック棒をフランス落とし受けの内側に当てるようにしてください。



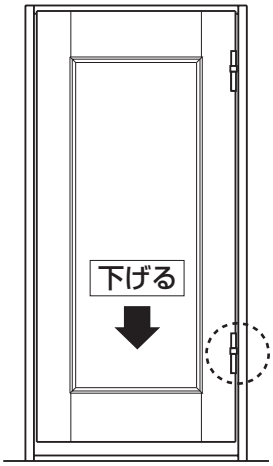
【フランス落とし受け】



WL・FL・CL・SL戸襖ドア／丁番による建付け調整

不具合例

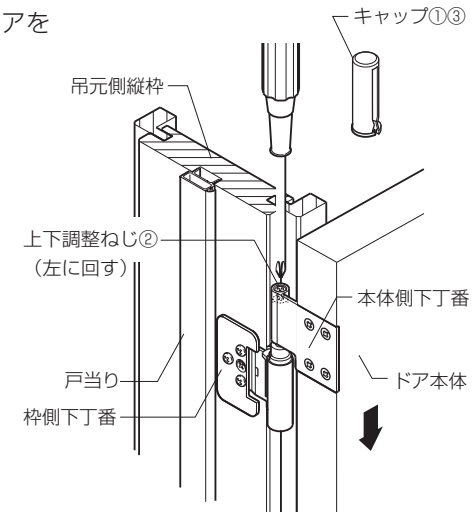
■ドアの上部が枠に当たる。



（調整範囲　下：3mm）

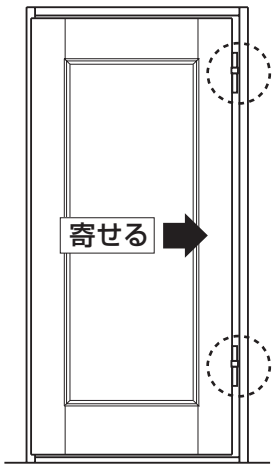
調整方法

①本体側下丁番のキャップを外す。
②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。
③キャップをはめる。



不具合例

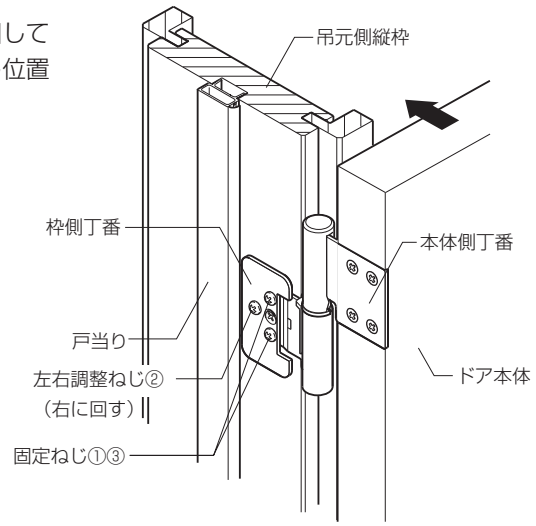
■ドアの開き側が枠に当たる。



（調整範囲　吊元側：1.5mm）

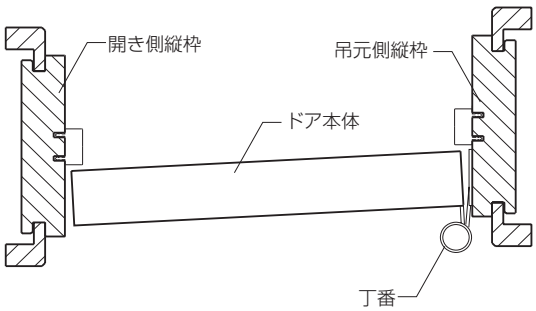
調整方法

①固定ねじをゆるめる。
②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。
③固定ねじを締める。



不具合例

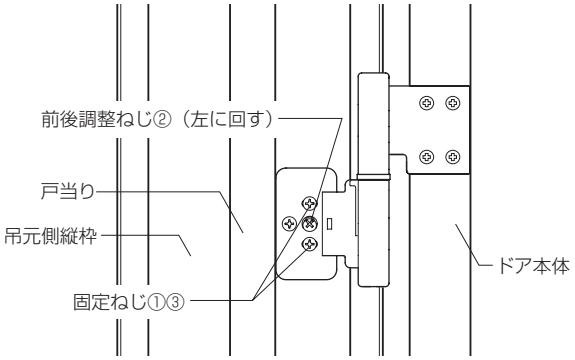
■開き側の枠が前に出ている。



（調整範囲　前：2mm）

調整方法

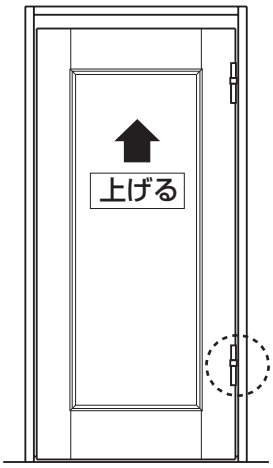
①固定ねじをゆるめる。
②前後調整ねじを左に回してドアを前に移動させる。
③固定ねじを締める。



調整方法について

不具合例

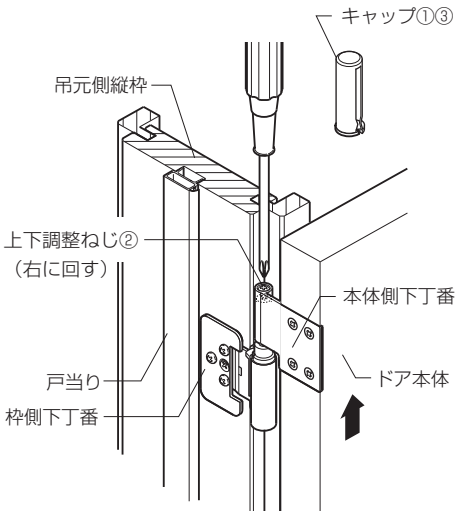
■ドアの下部が枠に当たる。



（調整範囲　上：3mm）

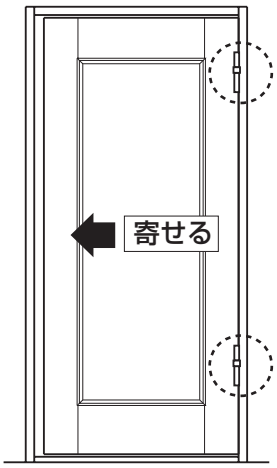
調整方法

①本体側下丁番のキャップを外す。
②上下調整ねじを右に回しドアを上げて位置を決める。
③キャップをはめる。



不具合例

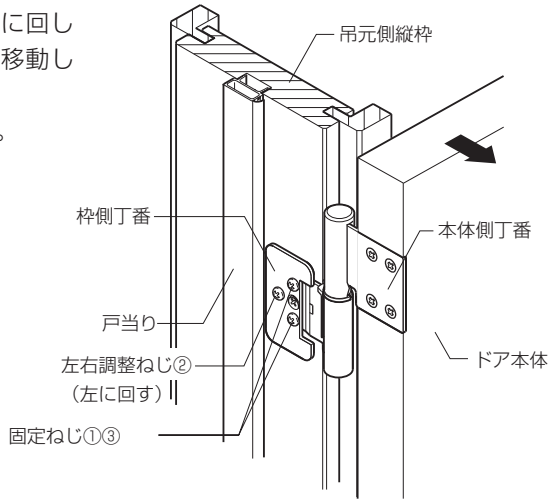
■ドアの開き側のすき間が大きすぎる。



（調整範囲　開き側：2.5mm）

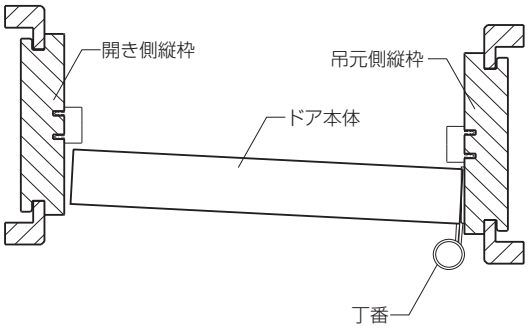
調整方法

①固定ねじをゆるめる。
②左右調整ねじを左に回してドアを開き側に移動し位置を決める。
③固定ねじを締める。



不具合例

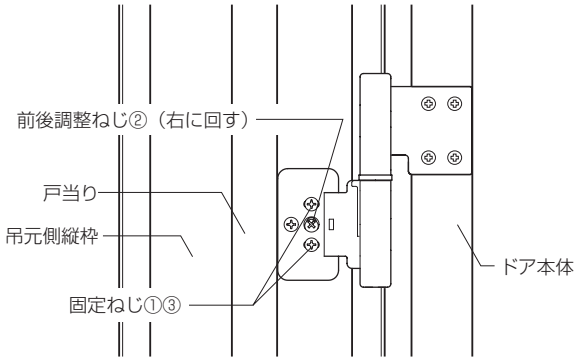
■吊元側の枠が前に出ている。



（調整範囲　後：2mm）

調整方法

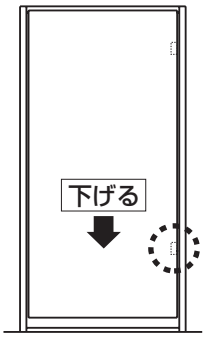
①固定ねじをゆるめる。
②前後調整ねじを右に回してドアを後に移動させる。
③固定ねじを締める。



GLドア／隠し丁番による建付け調整

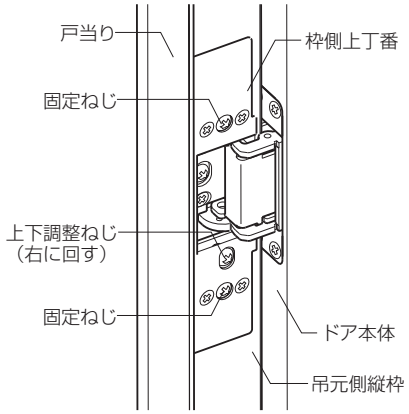
不具合例

■ドアの上部が枠に当たる。



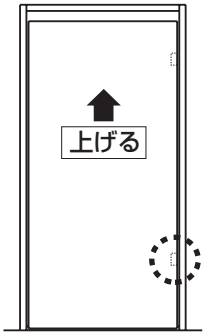
調整方法

①上下丁番の固定ねじをゆるめる。
②上下調整ねじを右に回して、位置を決める。
③上下丁番の固定ねじを締める。



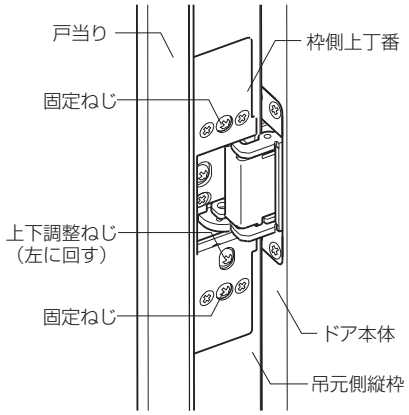
不具合例

■ドアの下部が枠に当たる。



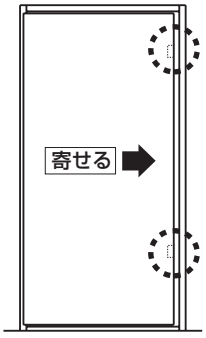
調整方法

①上下丁番の固定ねじをゆるめる。
②上下調整ねじを左に回して、位置を決める。
③上下丁番の固定ねじを締める。



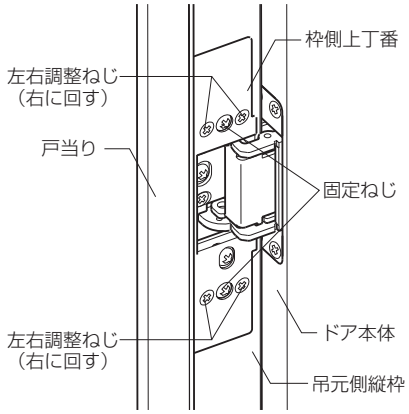
不具合例

■ドアの開き側が枠に当たる。



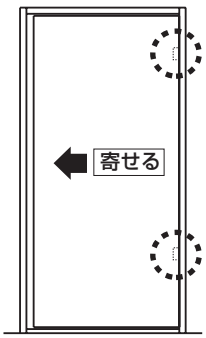
調整方法

①丁番の固定ねじをゆるめる。
②左右調整ねじを右に回して、位置を決める。
③固定ねじを締める。



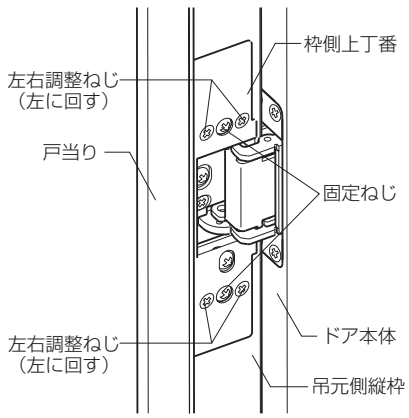
不具合例

■ドアの吊元側が枠に当たる。



調整方法

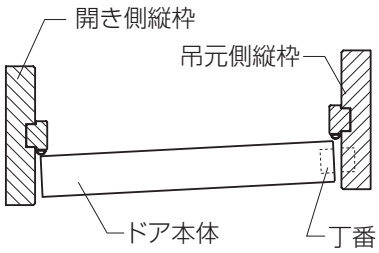
①丁番の固定ねじをゆるめる。
②左右調整ねじを左に回して、位置を決める。
③固定ねじを締める。



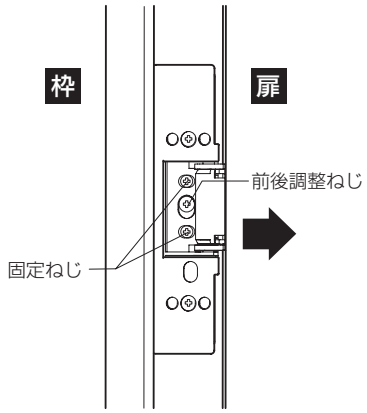
調整方法について

不具合例	調整方法

■開き側の枠が前に出ている。

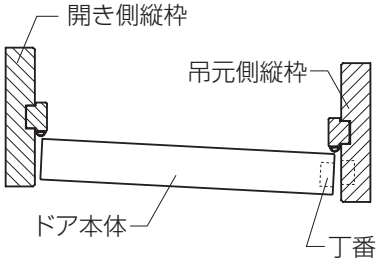


①前後調整固定ねじをゆるめる。
②前後調整ねじを回してドアを前に移動させて位置を決めます。
③前後調整固定ねじを締める。

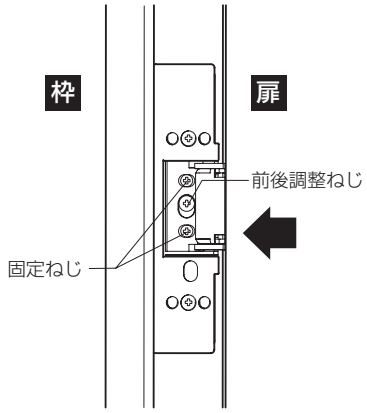


不具合例	調整方法

■吊元側の枠が前に出ている。



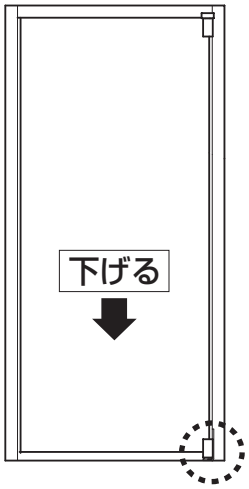
①前後調整固定ねじをゆるめる。
②前後調整ねじを回してドアを後に移動させて位置を決めます。
③前後調整固定ねじを締める。



WLドア／ピボット丁番による建付け調整

不具合例

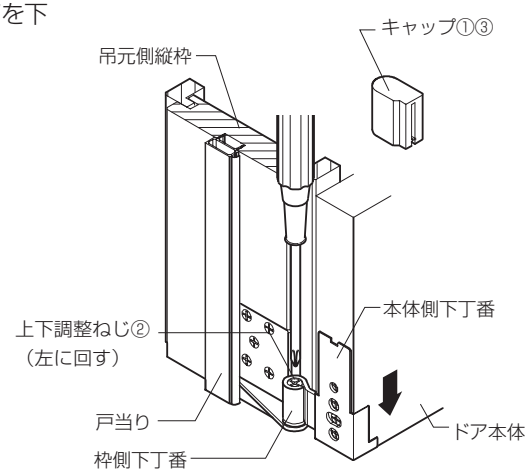
■ドアの上部が枠に当たる。



（調整範囲　下：1mm）

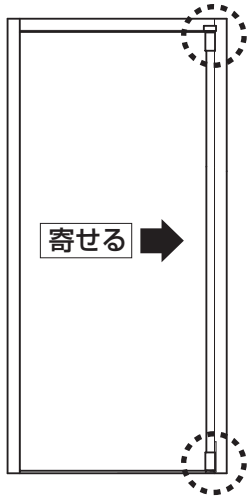
調整方法

①本体側下丁番のキャップを外す。
②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。
③キャップをはめる。



不具合例

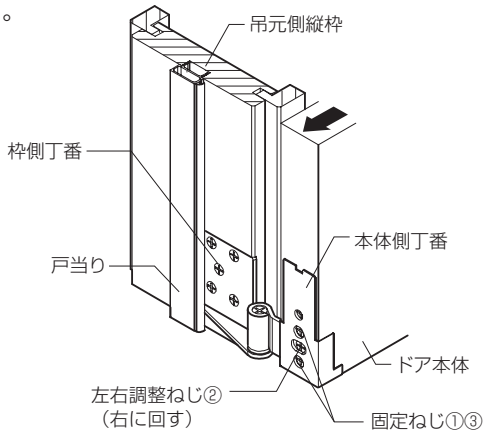
■ドアの開き側が枠に当たる。



（調整範囲　吊元側：1.5mm）

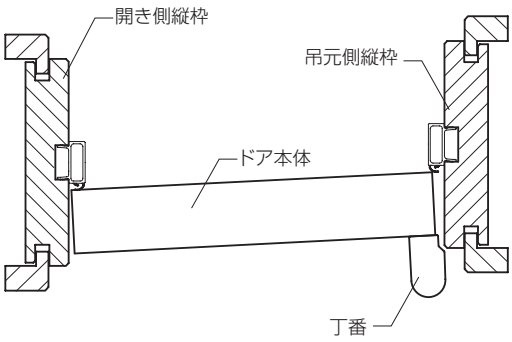
調整方法

①固定ねじをゆるめる。
②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。
③固定ねじを締める。



不具合例

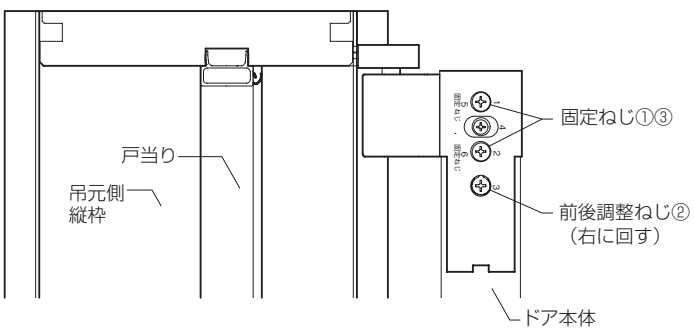
■開き側の縦枠が前に出ている。



（調整範囲　前：2mm）

調整方法

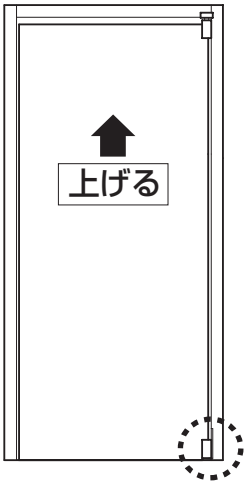
①固定ねじをゆるめる。
②前後調整ねじを右に回してドアを前に移動させる。
③固定ねじを締める。



調整方法について

不具合例

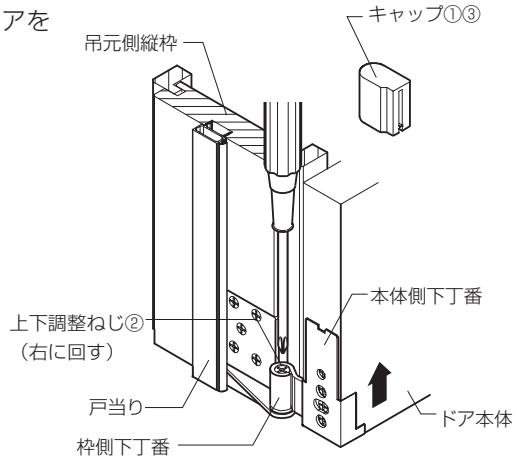
■ドアの下部が枠に当たる。



（調整範囲　上：2mm）

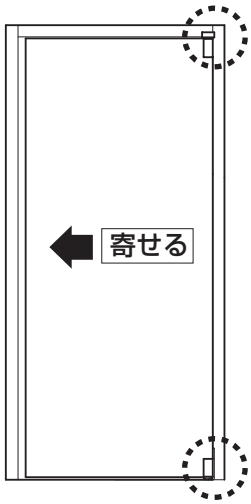
調整方法

①本体側下丁番のキャップを外す。
②上下調整ねじを右に回しドアを
　上げて位置を決める。
③キャップをはめる。



不具合例

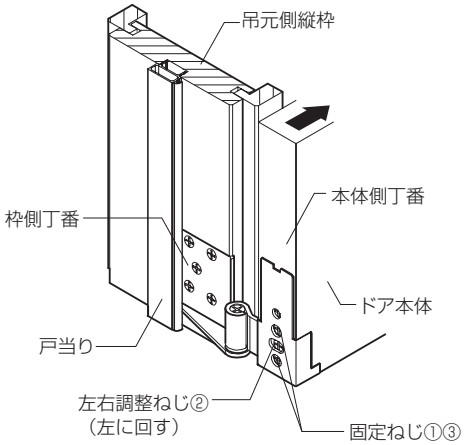
■ドアの開き側のすき間が大きすぎる。



（調整範囲　開き側：2.5mm）

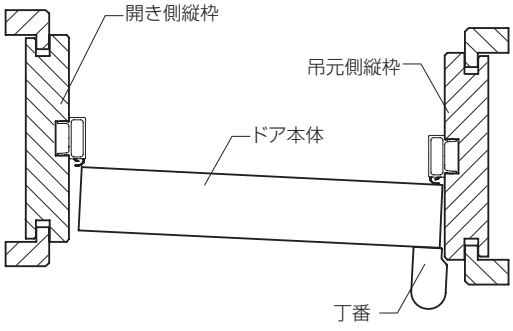
調整方法

①固定ねじをゆるめる。
②左右調整ねじを左に回してドアを
　開き側に移動し位置を決める。
③固定ねじを締める。



不具合例

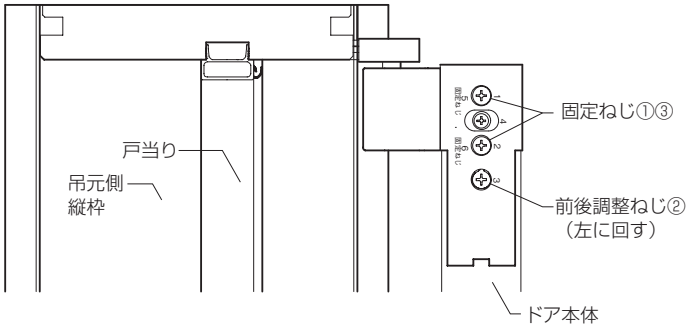
■吊元側の縦枠が前に出ている。



（調整範囲　後：2mm）

調整方法

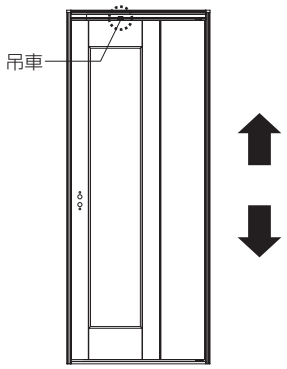
①固定ねじをゆるめる。
②前後調整ねじを左に回してドアを後に移動させる。
③固定ねじを締める。

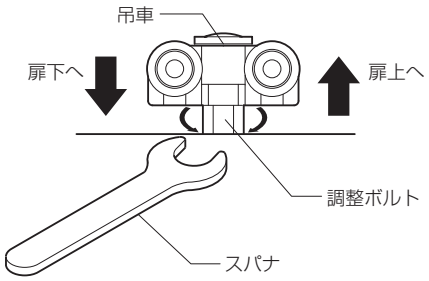


WL中折れドア／左右・上下調整

上下調整

●吊車で調整します。調整幅は±3mmです。
●付属のスパナで時計回りに回すと扉が上がり、反時計回りで扉が下がります。

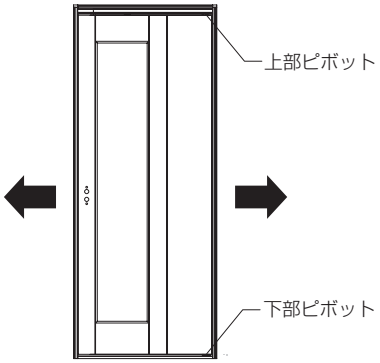


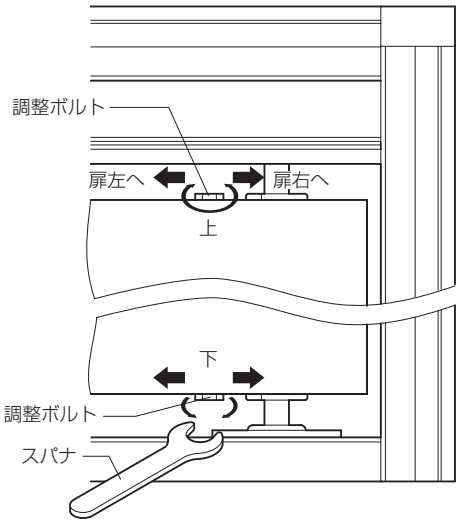


左右調整

●上・下部ピボットで調整します。調整幅は±2.5mmです。
●付属のスパナで上・下部ピボットの調整ボルトを回して調整します。

	扉を左へ	扉を右へ
上部ピボット	時計回り	反時計回り
下部ピボット	反時計回り	時計回り



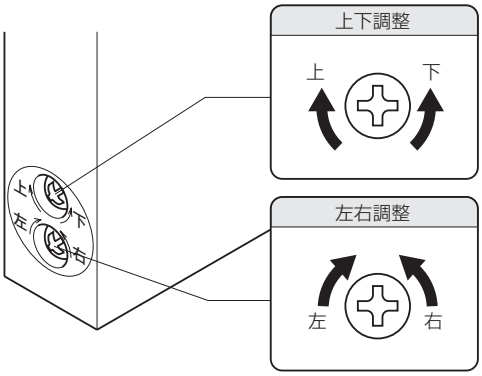


調整方法について

WL・FL・GL・CL室内引戸（Vレール方式・連動方式）／戸車による建付け調整

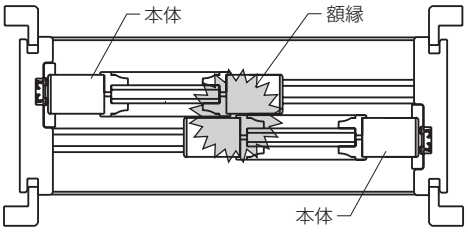
■上下調整（調整幅＋4mm、－2mm）

本体両下端の上下調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

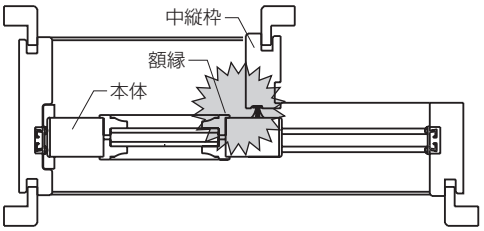


※左右調整する場合は、本体同士がぶつからないようにご注意ください。
又、本体と中縦枠モヘアが接触しすぎて、開閉が重くならないよう調整してください。

●引違い・3枚・4枚建



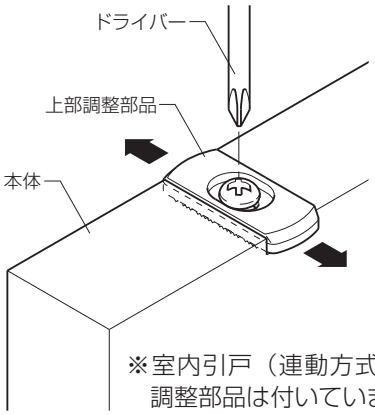
●片引き・引分け



■左右調整（調整幅±2mm）

【FL・CL】

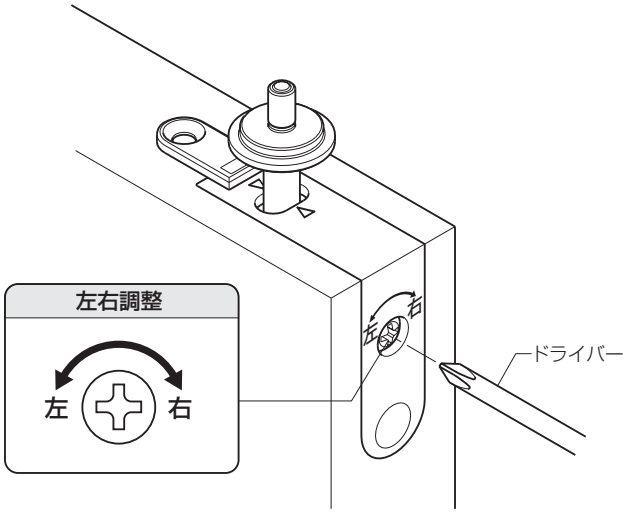
①本体両下端の左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。
②本体上端の上部調整部品のねじをゆるめ、①で調整した分だけ上部調整部品をずらし、ねじを締直します。
（本体が常に垂直になるように調整してください。）



※室内引戸（連動方式）には、上部調整部品は付いていません。

【WL・GL】

①本体両下端の左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。
②本体両上端の左右調整ねじを右に回すと本体が右に動き、左に回すと左に動きます。



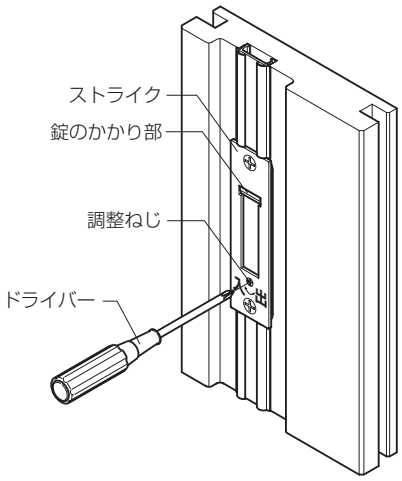
お願い

●調整は必ず手回しドライバーを使用してください。
電動ドリルを使用した場合は、ねじ頭が壊れるおそれがあります。

WL・FL・GL・CL室内引戸／引戸錠のかかり調整

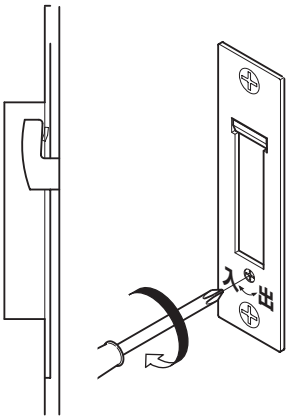
■引戸錠のかかり調整

●ストライクの調整ねじを左に回すと錠のかかり部が出て、右に回すと錠のかかり部が奥に入ります。



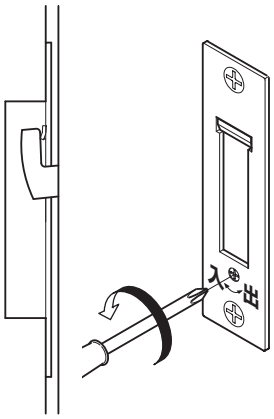
【本体と枠のすき間が大きい場合】

●調整ねじを右に回して調整してください。



【錠がかかりにくい場合】

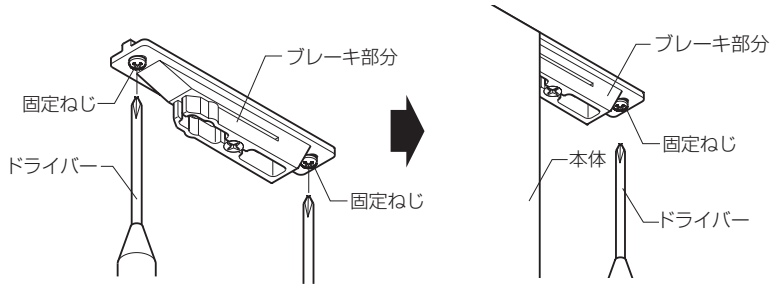
●調整ねじを左に回して調整してください。



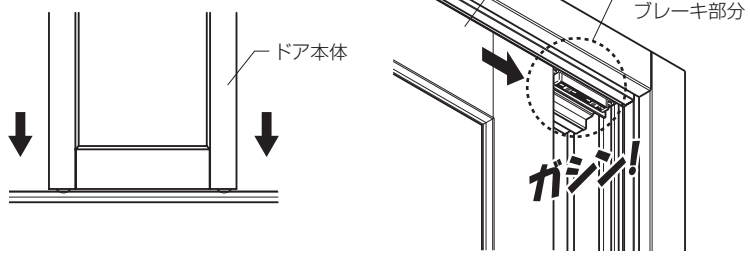
FL室内引戸（Vレール方式）／ブレーキ調整

■ブレーキの左右調整

本体の左右調整時、ブレーキの左右調整も行ってください。
上レール内側に付いているブレーキ部品の固定ねじをゆるめ、図のように本体を途中まで閉じてください。このまま片側の固定ねじを締め、本体を開けて反対側の固定ねじも締めてください。



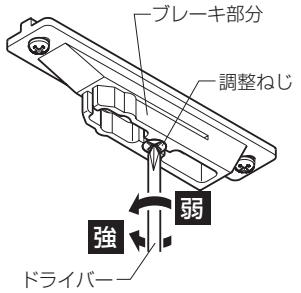
●本体がブレーキ部品に当たる時は、上下調整ねじを回して本体を下げてください。



お願い

●調整ねじを弱方向に回す場合、ブレーキの表面からねじ頭の出寸法が1.5mm以内になるように調整してください。

回しすぎるとねじがぬけます。



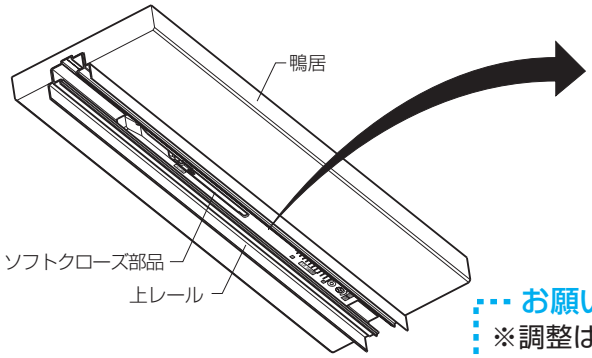
調整方法について

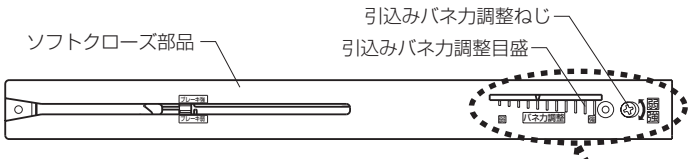
WL室内引戸　Vレール方式・上吊方式（ソフトクローズ仕様）／引込み調整

WL可動間仕切り引戸コーナータイプ／引込み調整

GL室内引戸　Vレール方式・可動間仕切り引戸スライドタイプ（ソフトクローズ仕様）／引込み調整

■引込み力の調整



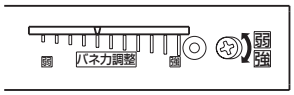


お願い

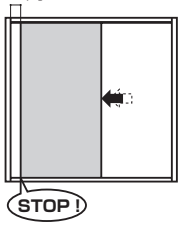
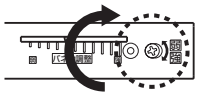
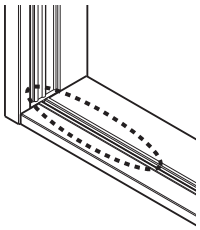
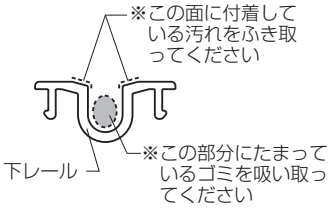
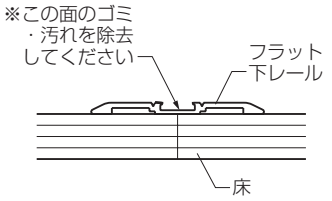
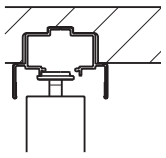
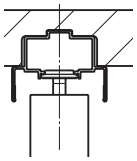
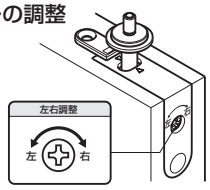
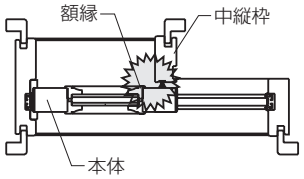
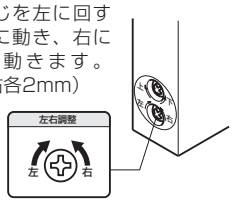
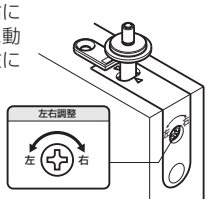
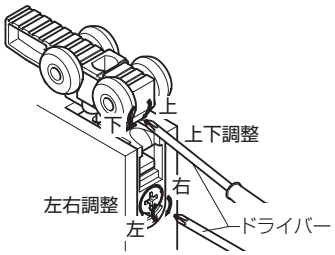
※調整は必ず手回しドライバーを使用してください。（電動ドリルは使用しないでください。）

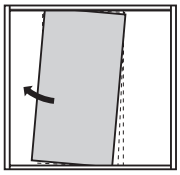
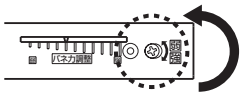
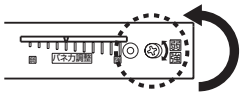
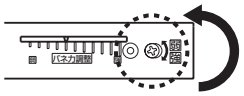
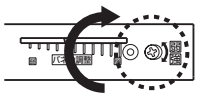
■引込み力調整

上レール内に付いているソフトクローズ部品の調整ねじで、引込み力を調整してください。右に回すと強くなり、左に回すと弱くなります。調整具合は引込みバネ力調整目盛りで確認できます。



■ソフトクローズ機構の調整方法

現　象	チェックポイント	対処方法
閉まりきらない すき間 	●ソフトクローズ部品の引込みバネ力調整目盛りが『強』側に調整可能である 	プラスドライバーで、時計回りに調整ねじを回してください。 
	●下レールやフラット下レールに粉塵やゴミがたまったり付着している ※Vレール方式･可動間仕切り引戸の場合 	清掃してください。 **■Vレール方式の場合**  **■可動間仕切り引戸の場合** 
	●ガイドローラーが上レールのセンターと芯がズレている ※Vレール方式のみ 	ガイドローラーの左右調整ねじで芯を合わせてください。  **■ガイドローラーの調整** 左右調整ねじを右に回すと本体が右に動き、左に回すと左に動きます。（調整幅左右各2mm） 
	●本体とモヘアが接触している ※Vレール方式・上吊方式・可動間仕切り引戸の片引き・引分けのみ 	**■Vレール方式の場合** 戸車とガイドローラーの左右調整ねじで本体にモヘアが触れて開閉が重くならないように調整してください。 **【戸車の調整】** 左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。（調整幅左右各2mm）  **【ガイドローラーの調整】** 左右調整ねじを右に回すと本体が右に動き、左に回すと左に動きます。（調整幅左右各2mm）  **■上吊方式・可動間仕切り引戸の場合** 吊車の左右調整ねじで本体にモヘアが触れて開閉が重くならないように調整してください。 **【吊車の調整】** 左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。（調整幅左右各2mm） 

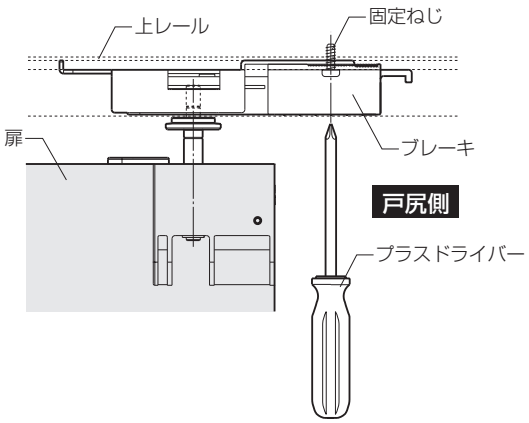
あおる 	●ソフトクローズ部品の引込みバネ力調整目盛りが『弱』側に調整可能である 	プラスドライバーで、反時計回りに調整ねじを回してください。	
開くときに重く感じる ※重たさの調整には限度があります。	●ソフトクローズ部品の引込みバネ力調整目盛りが『弱』側に調整可能である 	プラスドライバーで、反時計回りに調整ねじを回してください。	
閉まる速さが速く感じる ※スピードの調整には限度があります。数セットある場合、取付状態や本体デザインによってスピードが均一にならない可能性があります。	●ソフトクローズ部品の引込みバネ力調整目盛りが『弱』側に調整可能である 	プラスドライバーで、反時計回りに調整ねじを回してください。	
閉まる速さが遅く感じる ※スピードの調整には限度があります。数セットある場合、取付状態や本体デザインによってスピードが均一にならない可能性があります。	●ソフトクローズ部品の引込みバネ力調整目盛りが『強』側に調整可能である 	プラスドライバーで、時計回りに調整ねじを回してください。	

調整方法について

WL室内引戸　Vレール方式（簡易ブレーキ仕様）／ブレーキ調整

■ブレーキ力調整

①扉を閉めた状態で上レール内側に付いている
ブレーキ部品の固定ねじをゆるめます。

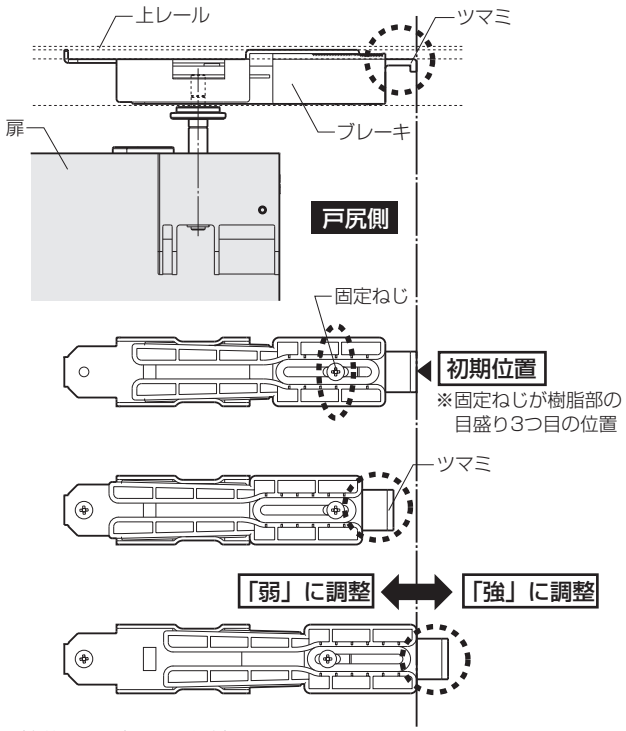


お願い

- ●調整は必ず手回しドライバーを使用してください。
  電動ドリルは使用しないでください。
- ●引分け、4枚建合掌部および、片引き2枚、3枚のクロス引手部のブレーキ力は強めの設定でご使用ください。

②ブレーキ先端のツマミを左右にスライドさせて強弱の調整を行います。

※ツマミを手前側に引くと「強」、ツマミを押込むと「弱」に調整できます。



③調整後、固定ねじを締め込みます。

WL室内引戸（上吊方式）・WL室内引戸（アウトセット方式）・WL可動間仕切り引戸コーナータイプ・GL可動間仕切り引戸スライドタイプ／吊車による建付け調整

■上下調整（調整幅+4mm、−1mm）

プラスドライバーで吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が下がり、左に回すと本体が上がります。

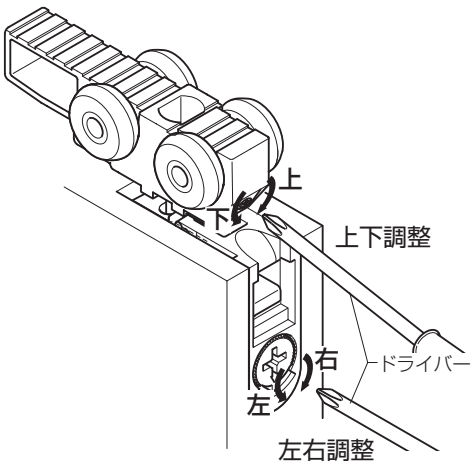
※床面と本体下部とのチリ寸法は、8mmが標準です。

※本体を下げ過ぎるとガイドピンベース部と本体が当たりますので、下げすぎないでください。

■左右調整（調整幅±2mm）

左右調整は片引きの場合、中縦枠と本体のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ9mm)に実施してください。引違いの場合、本体同士のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ8mm)に実施してください。プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が右へ動き、右に回すと本体が左に動きます。

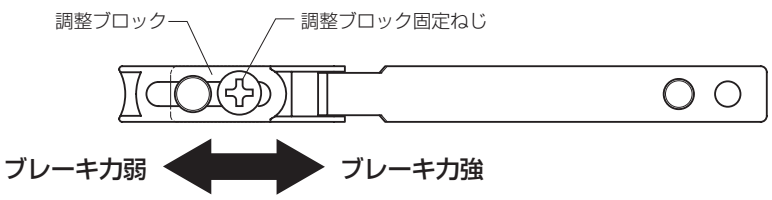
※前後調整した場合は、本体が常に垂直になるようにガイドピンおよび縦枠下部のブレ止めの調整をしてください。調整しないと開閉操作が重くなる場合があります。



WL室内引戸（アウトセット方式）／ブレーキ調整

■ブレーキ力調整

上レール内側に付いているブレーキ部品の調整ブロック固定ねじを2回までゆるめ、調整ブロックをスライドさせて、ブレーキ力を調整してください。
調整後は、固定ねじを締めてください。



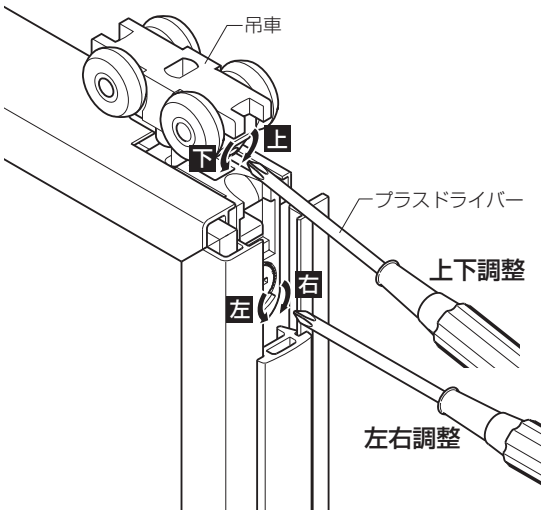
WLクローゼット引戸スライドタイプ・WL可動間仕切り（引戸連動タイプ・引戸スライドタイプ）／吊車による建付け調整

■上下調整（調整幅＋4mm、－1mm）

プラスドライバーで、吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が下がり、左に回すと本体が上がります。
※床面と本体下部とのチリ寸法は、8mmが標準です。
※本体を下げ過ぎると振れ止めベース部と本体が当たりますので、下げ過ぎないでください。

■左右調整（±2mm）

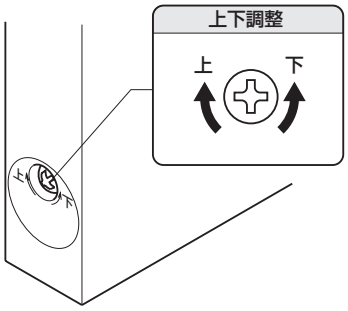
左右調整はプラスドライバーで、吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が右へ動き、右に回すと本体が左に動きます。



WLクローゼット引戸連動タイプ／戸車による建付け調整・ストッパー調整

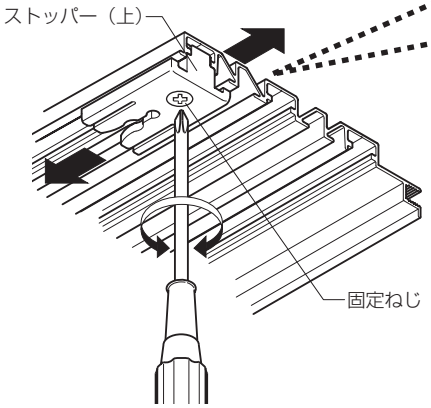
■上下調整（調整幅＋4mm、－2mm）

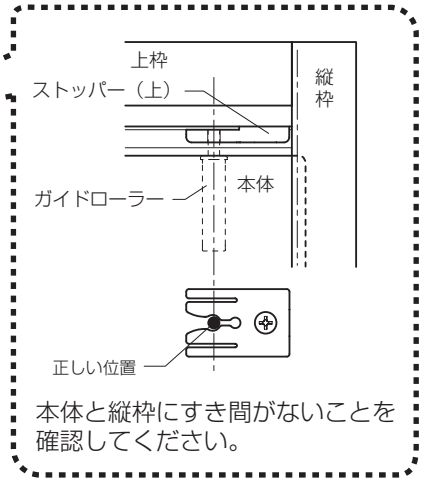
本体両下端の上下調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。



■ストッパーの調整

①ストッパーの固定ねじをゆるめます。
②下図のように正しい位置にストッパーを動かします。
③ストッパーの固定ねじを締めてください。





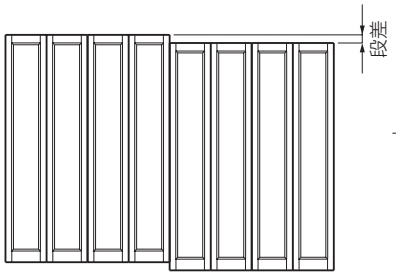
本体の高さ調整を行ったあとにストッパーの位置を調整してください。
※ガイドローラーがストッパーの正しい位置におさまるようにしてください。

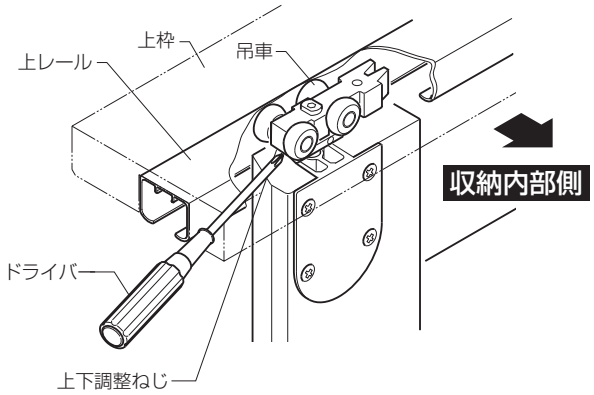
調整方法について

WL・FL（フリータイプ）・GLクローゼット折れ戸レール付タイプ／吊車による建付け調整

■段違い(上・下)の調整

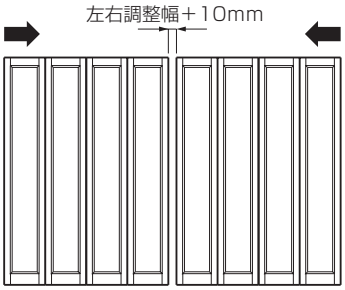
●本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回し調整してください。
(上下調整量±3mm)

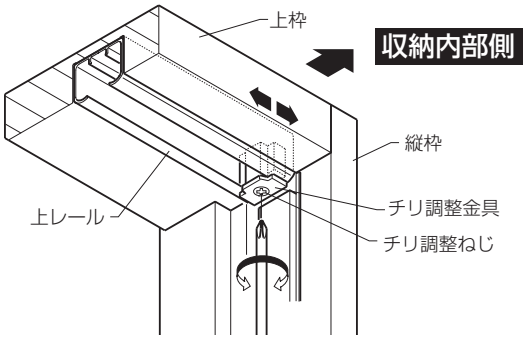




■チリ(左・右)の調整(フリータイプの場合)

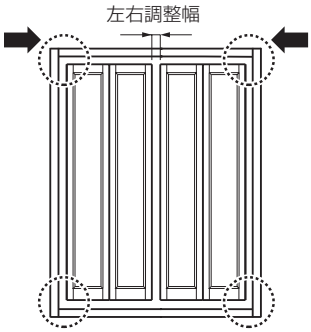
●本体間のチリが大きい場合、上レールの端部(左右)に付いているチリ調整金具で調整できます。
チリ調整ねじをドライバーで回し、調整してください。チリ調整ねじを右に回すと、チリが小さくなります。
注)チリ調整金具は、上レールの左右に付いています(W07・08は、片側のみ)ので、左右均等に調整してください。



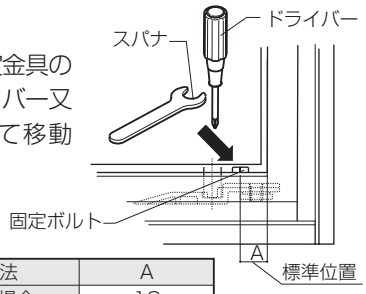


■チリ（左・右）の調整（ピボットタイプの場合）

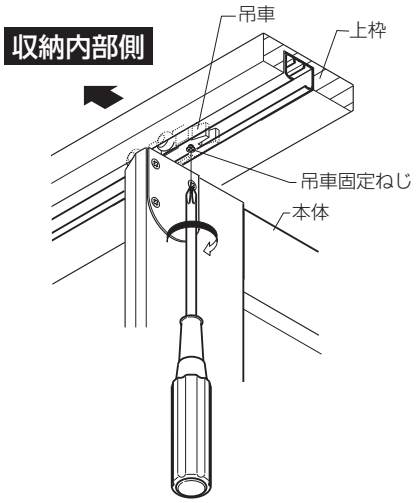
本体間のチリが大きい場合、吊車およびガイドローラー固定金具で左右調整を行います。



ガイドローラー固定金具の固定ボルトをドライバー又はスパナでゆるめて移動させます。



固定ねじまでの寸法	A
W12,13,16,18の場合	13
上記以外の場合	12.5



吊車固定ねじをドライバーでゆるめて移動させます。

FL（ピボットタイプ）・CLクローゼット折れ戸／調整ボルトによる建付け調整

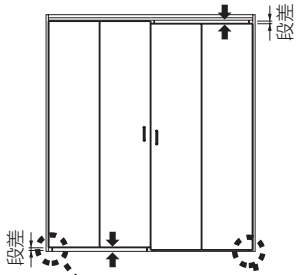
■段違い（上・下）の調整

●扉の取付け後、上下の目地が合っていない場合

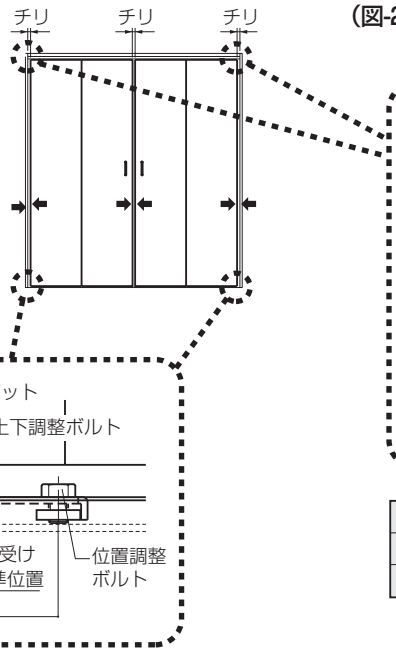
下部ピボットの上下調整ボルトを回して調整します。

上下調整量 薄下枠：±2mm　埋込下枠：±3mm（**図-1**）

（図-1）



（図-2）



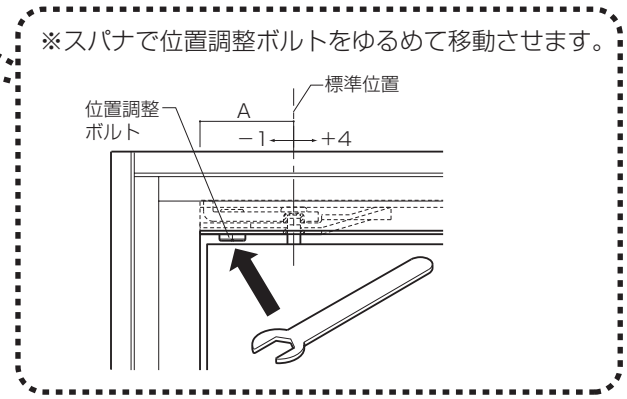
■チリ（左・右）の調整

●図-2のように左右のチリが大きい場合

上・下のピボット受けの位置調整ボルトをゆるめ、左右方向の調整をした後、ボルトを締付けます。（上部ピボット受けの左右調整量 +4、－1mm）

注：調整完了後、ピボット受けを同梱のスパナで本固定してください。

（図-2）



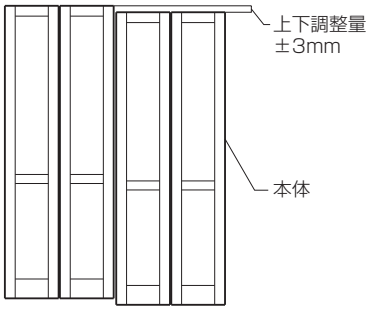
	A寸法
W12,13,16,18	32
上記以外の場合	31.5

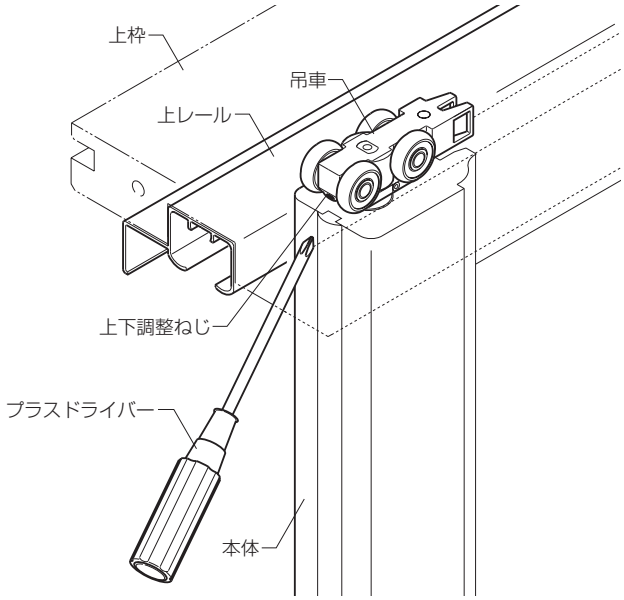
調整方法について

WL可動間仕切り折れ戸／吊車による建付け調整

■上下方向の調整

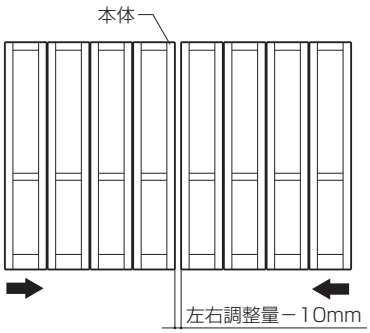
本体が段違いになった場合は、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回して調整してください。

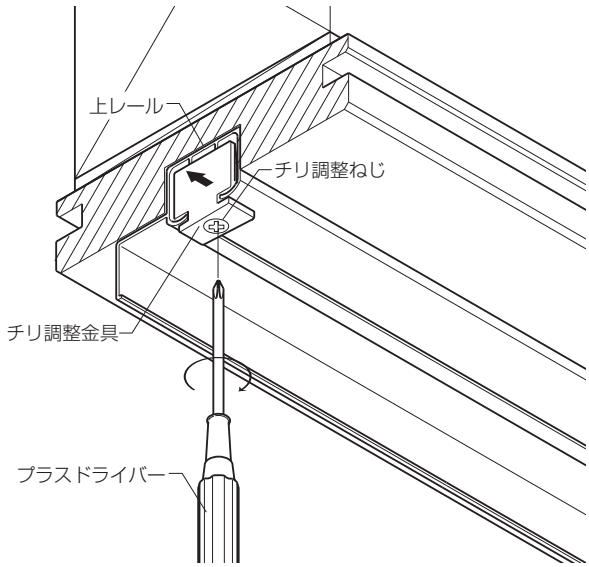




■左右方向の調整

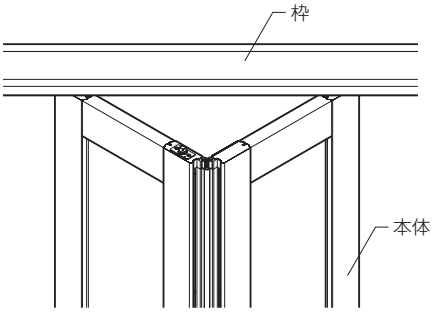
本体間のチリが大きい場合は、上レール両端のチリ調整ねじをプラスドライバーで回して調整してください。右に回すとチリが小さくなります。



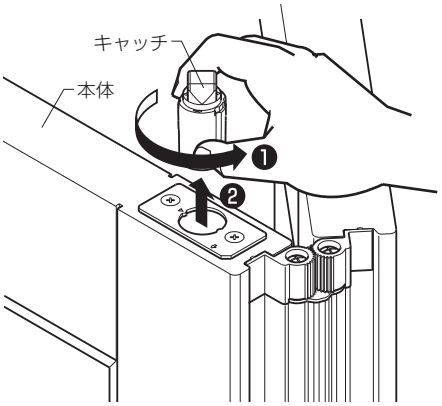


■本体の振れ止めの調整（キャッチの上下調整）

①本体を開けてください。

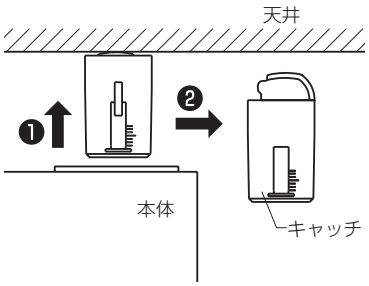


②キャッチのヘッドを左に回してロックを解除して、キャッチを上に引抜きます。



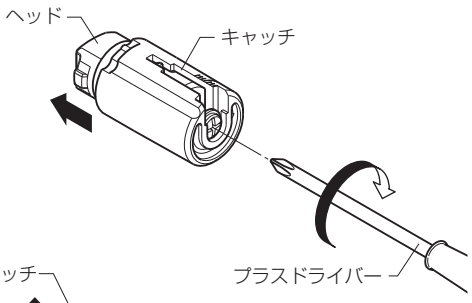
お願い

●天井と本体上端とのスペースが小さい場合は、キャッチを天井に押付けて、キャッチ全長を短くした状態で横に抜いてください。

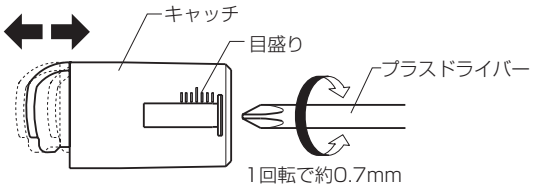


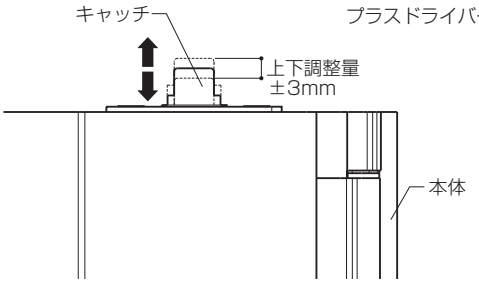
③キャッチ下面の調整ねじをプラスドライバーで回して調整してください。
※時計回りに回すとキャッチのヘッドが上がります。

●キャッチ力が弱いとき。	反時計回り
●キャッチにガタツキがあるとき。	
●キャッチ力が強いとき。	時計回り
●キャッチが上枠に当たり、本体を閉めることができないとき。	



※ねじ1回転で約0.7mm上下します。キャッチ側面の目盛りを目安にして調整してください。



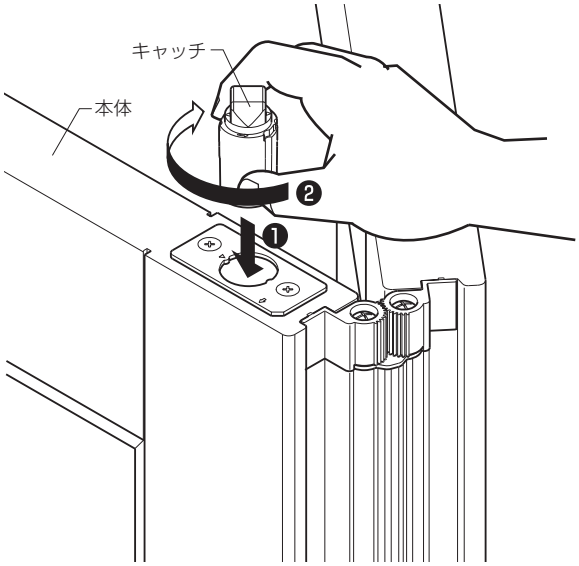


④キャッチを取付け穴に差込み、キャッチのヘッドを右に回してロックしてください。
※ヘッド取付け向きの間違い防止のため、押え板の突起の位置がずれています。押え板の突起の位置とキャッチの切欠きの位置を合せて差込んでください。

お願い

●必ず「カチッ」という手応えを感じるまで右に回してください。

キャッチのロックが不完全な場合、キャッチが破損する可能性があります。



⑤本体を閉めて、キャッチの掛かりを確認してください。問題がある場合は①～④の作業を繰り返してください。

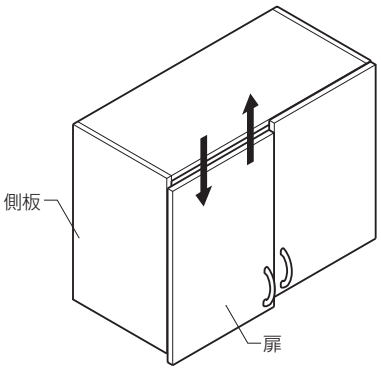
調整方法について

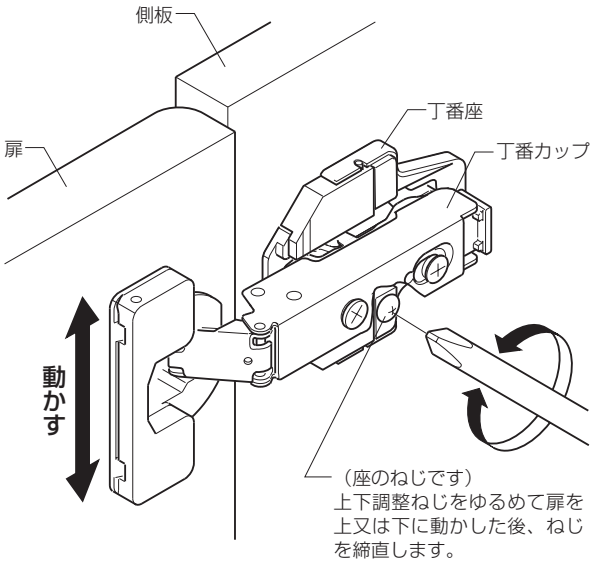
収納開き扉／スライド丁番による建付け調整

■上下調整

【調整範囲】

	クローゼット開き戸	玄関収納・システム収納・下駄箱	出窓収納
上方向	1.5mm	1.5mm	1.5mm
下方向	1.5mm	1.5mm	1.5mm

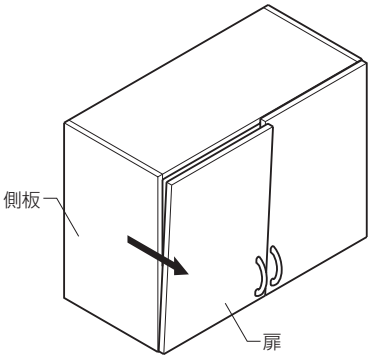


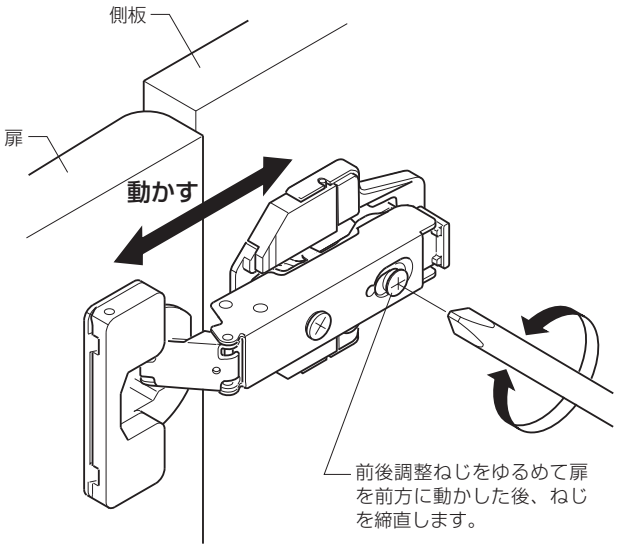


■前後調整

【調整範囲】

	クローゼット開き戸	玄関収納・システム収納・下駄箱	出窓収納
前方向	2mm	2mm	1.5mm
後方向	1mm	1mm	1.5mm

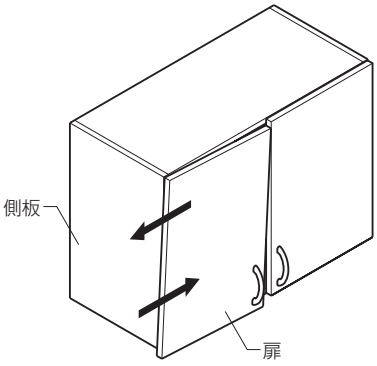


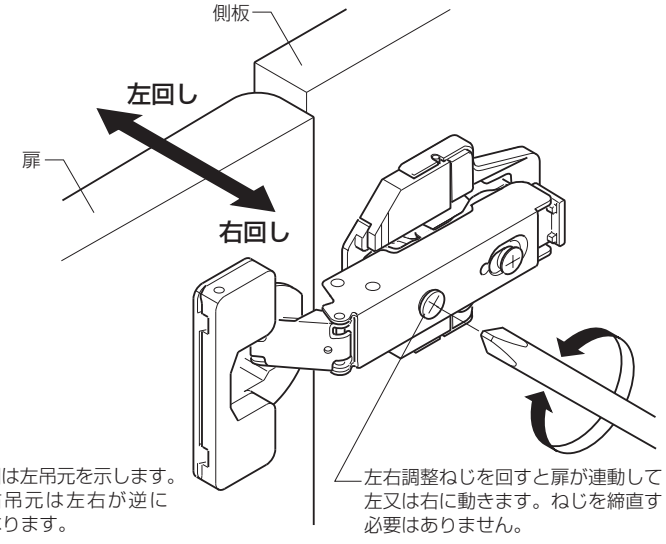


■左右調整

【調整範囲】

	クローゼット開き戸	玄関収納・システム収納・下駄箱	出窓収納
扉内方向	2mm	2mm	2.5mm
扉外方向	2mm	2mm	1.5mm



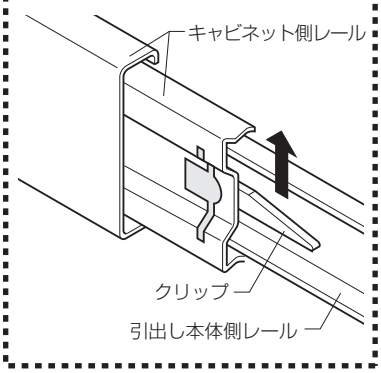


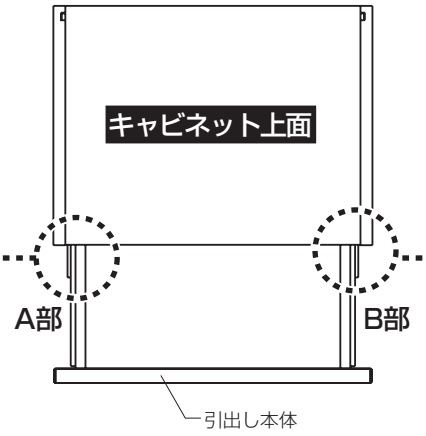
※図は左吊元を示します。
右吊元は左右が逆になります。

システム収納引出しの取外し方法

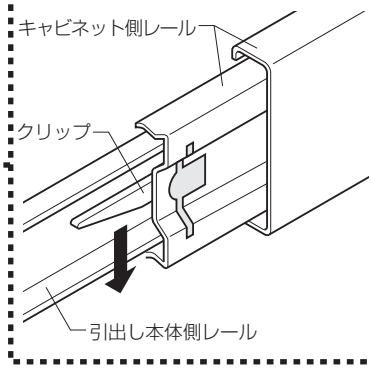
●引出し本体側レールのクリップを操作し、取外します。（クリップは、左右同時に操作してください。）

■A部（引出し左側のレール）
クリップを押上げると引出し本体側レールが外れます。



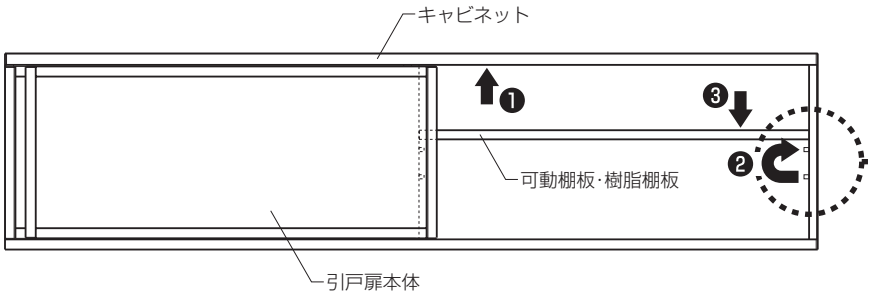


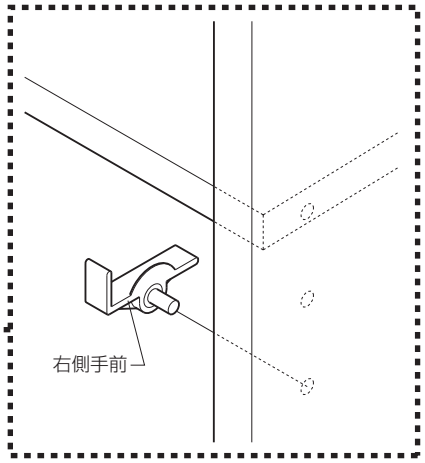
■B部（引出し右側のレール）
クリップを押下げると引出し本体側レールが外れます。



システム収納棚板位置の変更方法（引戸扉内部の場合）

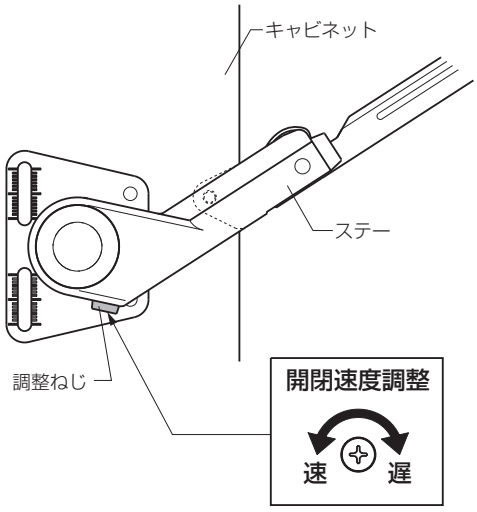
●引戸扉が取付いているキャビネットで、引戸扉を取外さずに可動棚板・樹脂棚板の棚の位置を変更する場合は、以下の手順の通り行ってください。
①棚板を持上げて棚ダボを抜きます。
②棚板を持上げたままの状態で、棚ダボをお好みの位置に差込んでください。
※手前側のダボには向きがあります。右図を参考に取付けてください。
③棚ダボの上に棚板をのせてください。



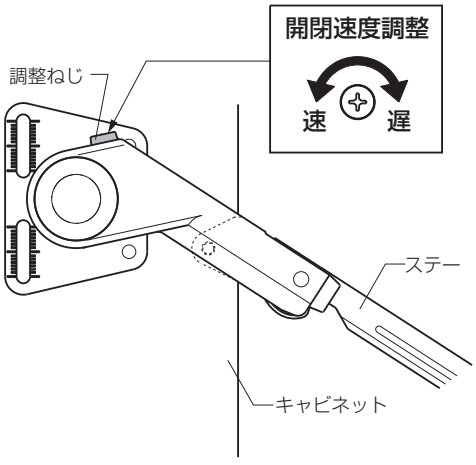


システム収納ステー付扉の開閉速度調整方法

■フラップ扉（上に開く扉）の場合
調整ねじを右に回すと閉じる速度が遅くなります。
左に回すと閉じる速度が速くなります。



■ＴＶ台扉（下に開く扉）の場合
調整ねじを右に回すと開く速度が遅くなります。
左に回すと開く速度が速くなります。



調整方法について

システム収納可動キャビネット移動方法

※この作業は必ずお取扱いの施工店・工務店・販売店にお願いしてください。

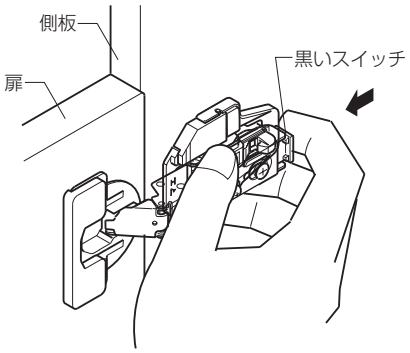
1扉・引出しの取外し

お願い

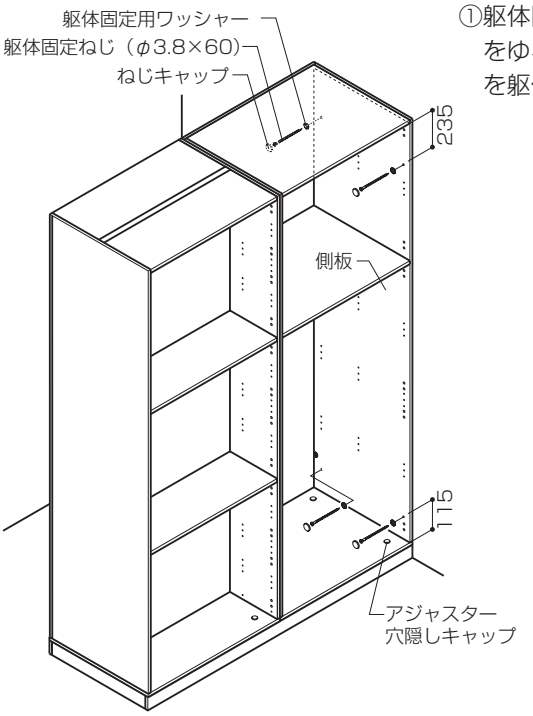
●キャビネットの中の収納物は、全て取出し、扉は全て取外してから移動させてください。

※扉は丁番カップの黒いスイッチを押して、取外してください。

引出しの取外しについては、P31を参照してください。



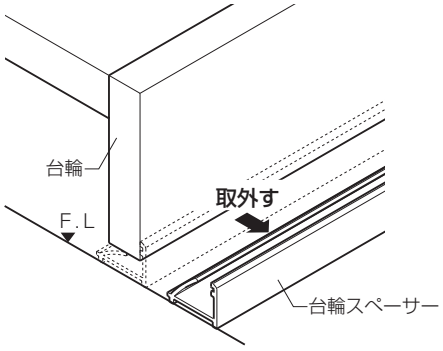
2キャビネットの躯体からの取外し



①躯体固定ねじ（4ヵ所）をゆるめ、キャビネットを躯体から取外します。

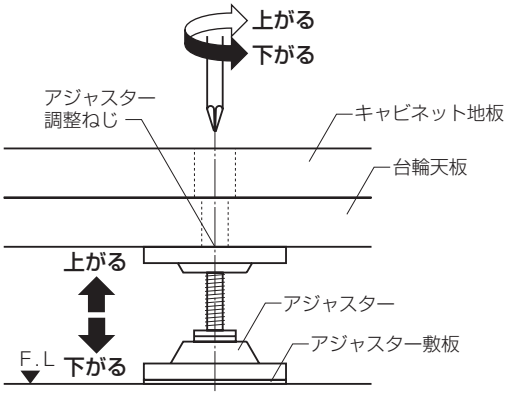
3キャビネットの移動

①台輪スペーサーを取外します。



②すべてのアジャスター穴隠しキャップを取外し、すべてのアジャスター調整ねじを左に回し、キャビネットを下げて、すべてのキャスターを床に接地させ、設置場所までユニットを移動させます。

②すべてのアジャスター調整ねじを右に回し、ユニットを床面に固定してください。

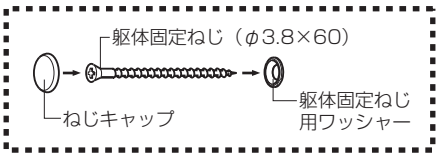


4キャビネットの躯体への再固定

※固定する位置に硬木の桟木があることを確認してください。桟木が石こうボードなどで確認できない場合は、石こうボードをはがして桟木位置を確認してください。桟木がない場合は、桟木（厚さ24mm×60mm以上の硬木を必ず取付けてください。）

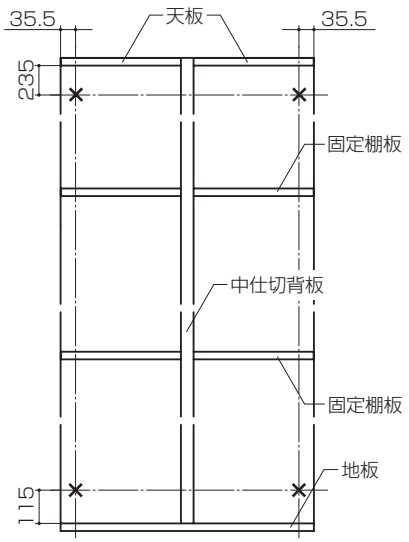
①水準器・下げ振りで確認しながら、アジャスター調整ねじでユニットが水平・垂直になるように調整してください。

②2で取外した躯体固定ねじ（φ3.8×60）で壁面（躯体）に固定してください。

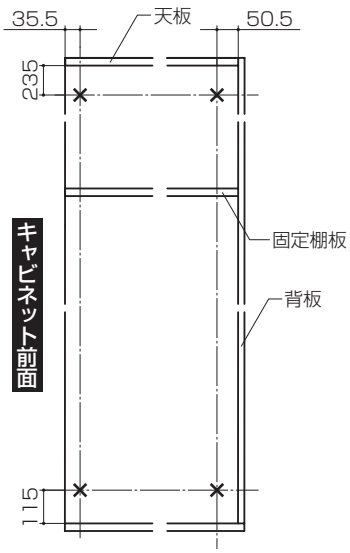


■キャビネット壁面（躯体）固定位置（×：固定位置）

【両面の場合】



【片面の場合】

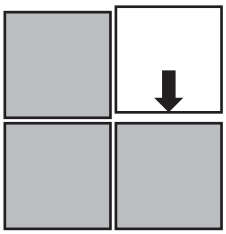
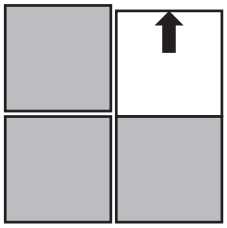
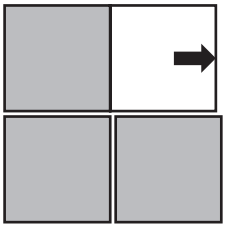
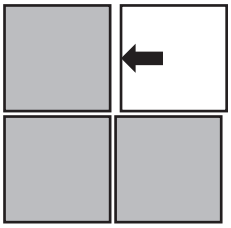


ハンギング・ウォール化粧パネルの調整方法

■上下、左右調整〈調整範囲：上下±1.5mm、左右±1.5mm〉

●下図のように、化粧パネルの位置を変更したい場合に上下・左右調整を行ないます。

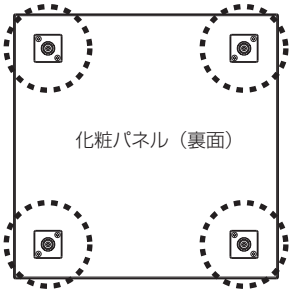
■正面から見た姿図

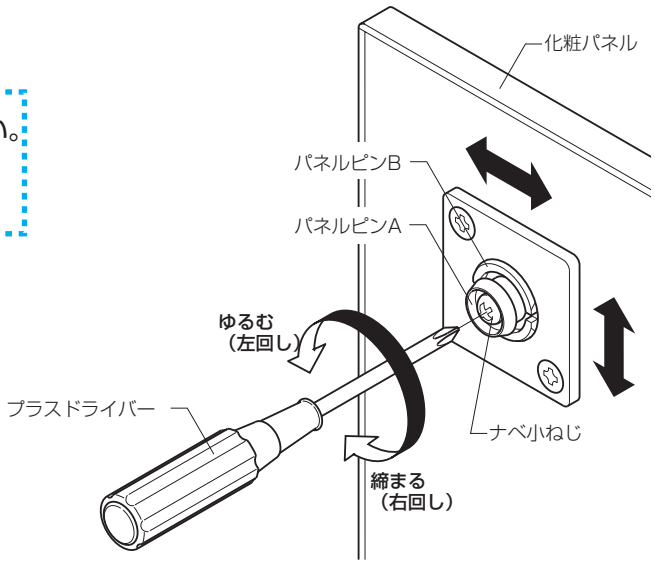
①化粧パネルが上にある場合	②化粧パネルが下にある場合	③化粧パネルが左にある場合	④化粧パネルが右にある場合
【調整方法】 ●パネルピンを上に移動してください。 	【調整方法】 ●パネルピンを下に移動してください。 	【調整方法】 ●パネルピンを裏から見て右に移動してください。 	【調整方法】 ●パネルピンを裏から見て左に移動してください。 

●ナベ小ねじをゆるめてパネルピンAを上下、又は左右に動かした後、ねじを締直します。

お願い

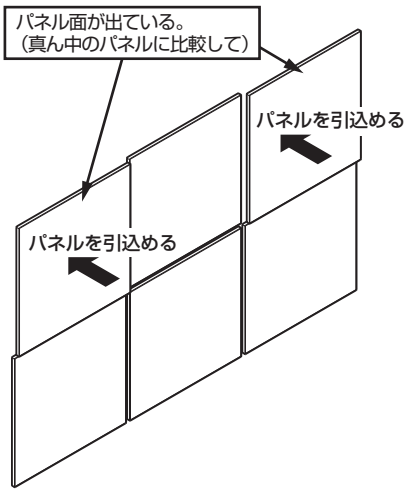
●調整は必ず手回しドライバーを使用してください。
●全てのピン（4ヵ所）を調整してください。
パネルの取付けができません。

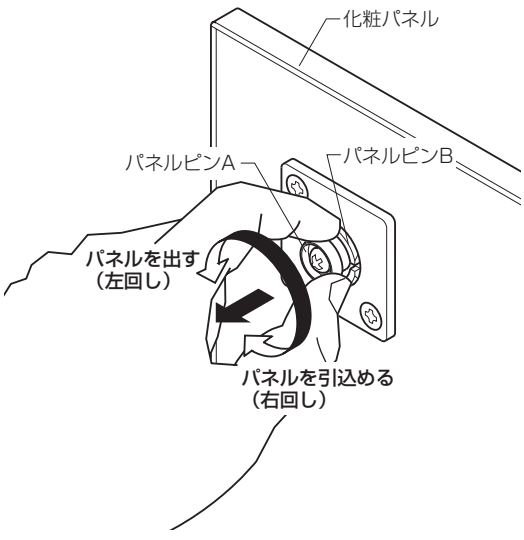




■前後調整〈調整範囲：前方向0mm、後方向3mm〉

●パネルピンBを回して調整します。
※パネルピンAとパネルピンBは連動して回転します。





お願い

●前後調整はパネルピン１回転で１mmの調整ができます。
先に上下・左右調整を行なうとパネルピンが偏芯しますので、1回転単位での調整を行なってください。

調整方法について

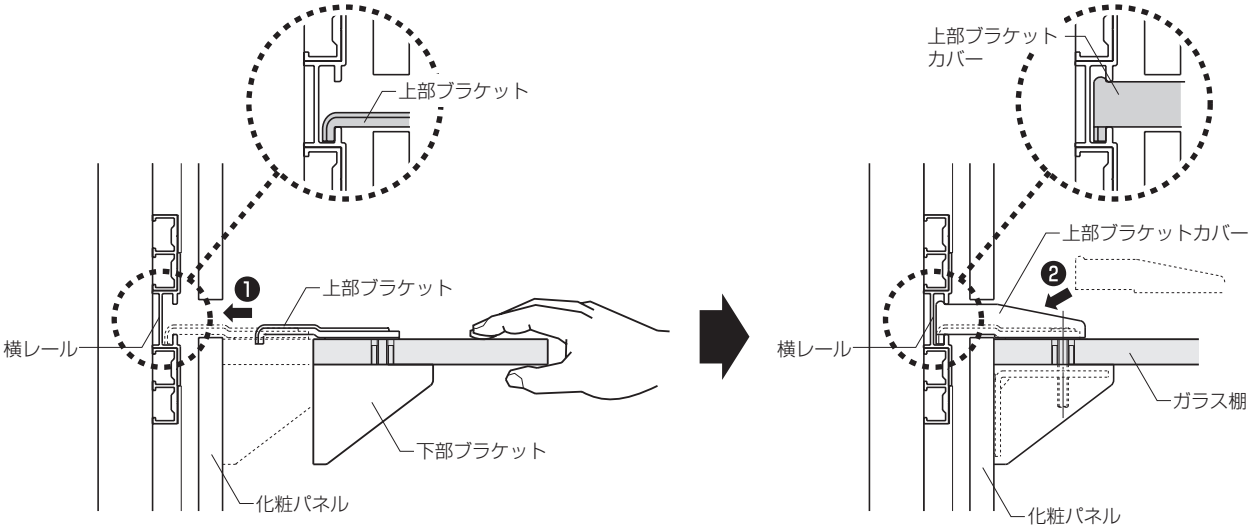
ハンギング・ウォールガラス棚板・フックの取付け方法

■ガラス棚板の取付け方法

※必ず化粧パネルを取付けた状態で行なってください。

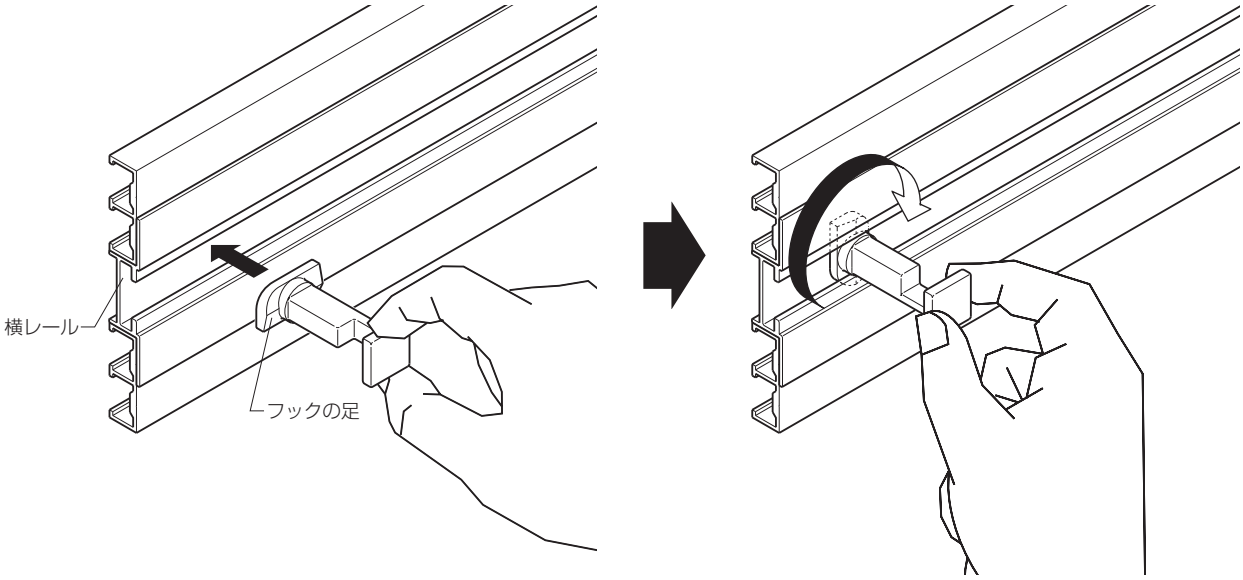
①横レールに上部ブラケットを差込み、レールにツメを引掛けます。

②上部ブラケットカバーのツバを横レールまで差込み、上部ブラケットに取付けます。



■フックの取付け方法

●フックの足を横レールに差込み、90˚回転させ取付けます。
位置を変更したい場合は、その状態でスライドさせます。



商品保証について

本書は、ここに記載の保証期間、保証内容の範囲において無料修理を行うことをお約束するものです。保証期間中、商品に故障・損傷などの不具合（以下「不具合」といいます）が発生した場合には、お取扱いの施工店、工務店、販売店又は当社商品相談窓口にご相談ください。

■対象商品…… リビング建材商品

■保証期間…… 施工者よりの引渡し日（注1・注2）から2年間（電装部品については1年間）
注1）改修工事の場合、改修部分の工事完了の日とします。
注2）分譲住宅（建売住宅）の場合、建築主さまへの引渡し日とします。

■保証内容…… 取扱い説明書、本体ラベル又はその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に商品そのものに不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項に該当する場合を除き無料修理いたします。

■免責事項…… 保証期間内でも、次のような場合には有料修理となります。
①当社の手配によらない加工、組立て、施工、管理、メンテナンスなどの不備に起因する不具合
（例えば、工事中の養生不良による変色や腐食など）
②表示された商品の性能をこえた性能を必要とする場所に取付けられた場合の不具合
③建築躯体の変形など商品以外の不具合に起因する商品の不具合
④商品又は部品の経年変化（使用に伴なう消耗、摩耗など。木製品のソリ、干割れ、変色など）や経年劣化（樹脂部品の変質、変色など）又はこれらに伴なうサビ、カビなどその他類似の不具合
⑤自然現象や住環境に起因する結露などの不具合
⑥環境が特に悪い地域又は場所での腐食および不具合（例えば、海岸地帯での塩害による腐食、浴室内などの湿潤な部位、部分的、又は全面的に野外に晒された場所。部屋内外の温度差が極端に違う部位に取付けられたもの、極端に乾湿を繰り返す部位に取付けられたもの。異常な高温・低温・多湿による不具合）
⑦天災その他の不可抗力（例えば、暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、地盤沈下、落雷、火災など）により、商品の性能をこえる事態が発生した場合の不具合
⑧施工当時実用化されていた技術、知識では予測することが不可能な現象又はこれが原因で生じた不具合
⑨犬、猫、鳥、鼠などの小動物の害による不具合やキクイムシなどによる虫害
⑩引き渡し後の使用上の操作誤り、調整不備又は適切な維持管理を行わなかったことによる不具合
⑪お客さま自身の組立て、取付け、修理、改造（必要部品の取外しを含む）に起因する不具合
⑫本来の使用（一般住宅用）の目的以外の用途に使用された場合の不具合
又は使用目的と異なる使用方法による場合の不具合
⑬犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合

※保証期間経過後の修理、交換などは有料とさせていただきます。
※本書によって、お客さまの法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お取扱いの施工店、工務店、販売店又は当社商品相談窓口にお問合わせください。

トステム株式会社

※商品のお問い合わせ・ご相談時のため、メモしておくと便利です。

■販売店名

TEL　　（　　）

■工務店名

TEL　　（　　）

MEMO

MAL-618
CQA4
2007年9月1日発行

トステム株式会社
本社 〒136-8535東京都江東区大島 2-1-1

●掲載商品に関する商品相談窓口　TEL(03)3638-8181

商品改良のため、予告なしに仕様の変更を行うことがありますのでご了承ください。